光

第二號
大正九年三月

◆いのり……高橋正雄
◆勞働問題と懺悔奉仕……中桐確太郎
◆生活安定策……松下吉衞
◆宣光社の概要……伊藤猛
◆勞働運動と社會的奉仕……たけし
◆勞働と平和……赤堀建

同人　懺悔報恩の奉仕者
祈願　不二の光明によれる生活
費用　供養されたる淨財

◆隱遁の根據について……倉田百三
◆斷食……張谷僴一郎
◆毒酒……中原綾子
◆天華香洞の回顧……鳥中雄三
◆返照錄……遠近兄姉
◆天華香洞錄……西田天香

宣光社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

いのり

いきがみこんこうだいじんさま、いきた、かみを、しんじさせて、ください、かねは、いきたものが、うんだ、かすであることを、しらせて、ください、しんようも、いきたものでは、ないことを、しらせて、ください、ちゐも、いきたものが、いきてゆくあいだに、できたあしばに、すぎないことを、しらせて、ください、とちも、いへも、しなものも、きものもみな、いきたものでないことをほんとうに、おもひ、しらせてください。

おやに、たよることを、やめさせてください。つま、こ、ともを、たよることを、やめさせて、ください。だんたいに、たよることを、やめさせて、ください。ひとが、どうおもはうとも、それに、たよることをやめさせて、ください。てんや、ちや、そんな、いのちのないものに、ぼんやり、たよることを、やめさせて　ください。かみといひつゝ、ことばだけのかみ、かんがへだけのかみに、たよることを、やめさせて、ください。

つまらぬものに、たよつて、いきて、ゆかうと、おもふ、こじきこんぜうを、すてさせて、ください。わたくしのめでみることができ、わたくしの、かんがへで、おもふことが、できるくらゐのものが、なんのたよりに、なるものでないことを、よくよくおもひしらして、ください。

わたくしが、たよれるやうにおもうたものは、みな、しんだもので、ありました。そんなものを、たよりに、してゐたおろかさを、やつと、きづかせて、くだされたことを、かんしや、いたします。わたくしは、もうなにものにも、たよりません。なにものかを、たよらうと、いたしますなら、わたくしは、しんで、しまつて、をるので、あります。

いきた、かみを、しんじんせよ、あなたは、かくをしへられました、あなたをも、しんじては、なりません。たゞ、いきたかみを、しんじねば、なりません。どんなに、いきてゐるようでも、それに、たよつたり、それを、しんじたり、してはなりません。そんなことを　すればすぐ、じぶんが、しんで、しまふからであります、なにものにも、たよらず、なにものをもしんぜず、といふたちばに、つねに、あらせて、ください。そこには、じぶんもなく、てんもなく、ちもなくかねも、なも、ちゐも、ひとも、つまも、こも、かんがへもかみも、みちも、なにものもなく、たゞ、それら、いつさいのものを、うみだす、いきたものが、はたらくのみで、あります。そこが、いきがみこんこうだいじんさま、あなたの、ゴヒレイ、かゞやきわたらせ、たまふところであります。わたくしを、つねに、そこにあらせて、ください、せうし、むめい、つゝしみて、いのりまつる。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

勞働問題と懺悔奉仕

中桐確太郎

（一）

大悟徹底して宇宙の實相を大觀する時、此世界はそのまゝ寂光の淨土、妙樂の天國である。然れども、再び還りて世相を眺むる時、斯世は依然たる衆苦の娑婆であり惱みの憂き世である。乃ち玆に、如何にもして此娑婆を淨土となし、天國を此世に將來したいといふ祈願が生じ來るのである。如是直感と祈願とは、時代により、人により、其形相と、其言ひ表はし方とを異にしてをるけれども、諸宗の敎祖、古今の聖者がたの等しく體驗せられたる所であり、また現代に於ても宗敎的經驗を有する者の共に參じ得る實感であると思ふ。

然れども、此世界の實相が、このまゝ淨土であり、天國であるならば、此世に淨土を開き天國を將ち來すといふことは、此娑婆世界を淨土天國と見得る眼を開くといふことに外ならないのではあるまいか。然り凡ての宗敎の差當りの目的は、自力と他力との差別はあるが、皆此の眼を開くにありといふても可なりと思ふ。然らば何が故に、その如き眼が開かず、如實に世界の眞相を見ることを得ず、此世を苦界となし、惱みの世となすのであるか。そも〳〵人は如何にして苦惱を感ずるに至つたのであるか。此等の問題に關しての詮索は、今姑く之を止めて、古今聖者の內證を竊かに推察し、敢て斷案を下せば次の如く言ふことが出來ると思ふ。曰く、そは畢竟するに、我執の囚縛を脫せず、自他一體の實感體驗に住することを得ざるが故である。人もし自他一體の實感に住することを得ば、此世は此儘にて天國となり、極樂淨土となるのである、と。

自他一體感に住して、その體驗を顯彰する活動を（私は名けて）愛と云ふ。天國淨土とは此意味に於ての愛と自由（卽ち自分の性能を活動發展せしむるの自由）との國土であると云つてよい。此の如き愛の十分に行はれない所が、娑婆であり、地獄であり、惱みの苦界である。此世に淨土を開き、天國を將ち來すとは、此の愛の活きを強くし、廣くし、深くし、高くし、淸くすることである。如何にして此の如くなることを得るか。私の思ふ所にては、愛の活きは、自他一體感に住しつゝある者同士の間に行はるゝ形相と、自他一體感を有しつゝある者が、然らざる者に對する時行はるゝ形相とは、おのづから違つてをる。前者に於ては、自在であり、融通無礙であり、相互に如何なることを爲しても何の障りも出て來ない。凡てが遊戲三昧と化するのであるが、後者に於ては、義務責任の色彩を帶んでくる。第一に、どうかして、自他一體感を一般に行き渡らせて、愛の活動を十分に行はしめねばならぬと祈願し、次ぎに、愛の十分に行き渡らぬのは、其罪自からにもあるのであるといふ懺悔の念をいだくのである。それで此世を天國淨土とするには、先づ

自分の此の罪を懺悔し、愛を祈り出さねばならぬといふことゝなる。愛を祈り出す姿には、順縁逆縁、種々であらうが、要するに、身命財能等を献げて他の要求に應じ自他一體たるの實を以て、他の我執を消し行くにある。天國淨土に於て、自由の活動たりしもの、此に於て、義務となり、職分となり來るのである。而して根本には、常に懺悔の念が特されねばならぬ。此の如き生活を愛の托鉢又は懺悔奉仕と名ける。古今聖者の行履は顯秘順逆いろ〳〵に異なつてはをるが、その精髓は即ち是に外ならずと信ずるが故に、私共は努めて、此道に由り、此足跡をたどりゆかんとするのである。目下天下を震撼せしめつゝある勞働問題に對しても、亦此の態度を持して行きたいと私は思ふのである。

（二）

天國淨土を此世に開き來さんことは、一切人類の至心の願望であり、憧憬である。これは人の心に、本來、自他一體の感が存してをるに係らず、何者かに邪魔せられて、十分に活動することが出來ず、乃ち其の繫縛より解脫せんとする願望であるといつてよい。古今聖者の祈りは、此の邪魔を破して本具の自他一體感を救ひ出さんとするのである。（所謂救濟は此處に存する）、即ち天國淨土を内より開拓し出さんとするのである。併しながら、自他一體たるの事實は外部よりの刺戟によりても（無意識的に又は有意識的に）知覺せしめられ、而して愛もおのづから啓發せしむることが出來る。此の形態は甚だ雜多である。之につきて詳述することは他日に讓るとし、只一例を擧げて見れば、同一の人を父とし、同一の人を母とし、同一の名を姓とし、同一の家に住し、同一の食卓につき、多くの場合、行動を同一にするといふ如き外部の事情が兄弟をして、互に自他同根なりといふ感を知らず識らずの間に起さしめ、『内に鬩げども、外その侮を禦ぐ』といふ如き愛を生ぜしむるのである。勿論、兄弟相互の愛、又は其親に對するの愛は、親がその子を愛するの愛より來る、所謂、親孝行は子孝行で、愛が愛を生むのであるけれども、亦、單に外部より智識的に自他一體を知覺せしめらるゝことによりても、愛を生じ得るものなることは、万里異鄉の旅客が單に同鄉同國の人に逢ひて、（その未だ曾て相識らざりし人なるに係らず、只單に、同鄉同國なりし由を聞きし丈にて）感ずるなつかしさの實驗に徵しても否むべからざることである。勿論此場合に於ても、眞の同鄉同國は愛の存する所にある、病める旅客をいたはり助けたるサマリヤ人こそ、其旅客に取りて、眞の隣人であるので、單に知識的に外部より刺戟し知覺せしめられたる自他一體感は甚だ稀薄脆弱なるものであることは保留して置かねばならぬのであるが、併し自他一體を知覺せしむる事情の多ければ多いほど愛が行はれそこに天國淨土の切望憧憬が、少しづつにても滿足せしめられつゝあることは亦動かすべからざる事實である。社會の種々なる形態（例せば家族、社團、國家等）は此

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

の意味にて、一部分的、一時的而してなほ不完全なる天國であり、淨土であると謂つて可いと思ふ。

現代は國家本位の時代といふことである。社會の種々なる形態のうちで、國家は比較的に多く、自他一體の感を維持し、そこに、人々が其の性能を比較的に自由に活動發展せしむることが出來ると思つてをるからであらう。即ち同一の民族、同一の言語、同一の風俗習慣、同一の文化文明、而して多くの場合、同一の郷土に住し、同一の歴史を有して居るといふ如き事情が、自他一體なるをおぼろげながらにも知覺せしめ、かくして生ぜる愛の力は國民各自の我執を比較的多く取り去り、君國同胞の爲に一身を犧牲に供するの情をも漸く深くし、一致團結、以て他の侵略に對抗して存立を維持し、玆に各自が比較的多く其性能を自由に活動發展せしむることを得る境界を作り出したのである。

勿論、國家成立の生起的緣因は多くの場合に於て、一社團が他社團に加へたる征服にあるかも知れぬ。隨ひて、それに伴ふ命令、强迫、威嚇、または懷柔、誘惑なども、種々の形に於て、國家成立の有力な要因となつてをるかも知れぬ。また此の如きものが必要なるほど、各人の間には我執の念が充ち滿ちてをるのであらう。現代の國家は我執と愛との合ひの子ともいふべきもので、決して完全なる天國淨土でないことは言ふまでもない。併しながら、比較的多く自他一體感を（縱へ外部的にとはいへ）維持して、各自の性能を比較的自由に活動發展せしむるに適せる處として存立してをる間は、心を國家の事に存する人、即ち國士たる者は、國民相互を我執の囚はれより脫せしめんが爲に、國民間の嫉惡の原因を出來る丈、尠くすることに心を用ゐ力を盡さねばならぬ。是れが爲には法律制度の改正も必要であらう。また外國よりの侵略を被りて國家としての存立が能きなくなり、その爲に自他一體感の依り所を失ひ、人々の我執がいよ〳〵募り行くやうなる惧れがあるならば、國家としては、他國の横暴侵略を防ぐ丈の軍備も必要であらう。尤も、國民の全體が我執の囚はれより脫し得たる場合には、凡ての調子や態度は全く異れる趣を呈するであらうが、我執に囚はれてをる人が多い場合には、內政も外交も、それに順應して、種々の變態を呈すべきは止むを得ぬのである。併しながら國民一部の我執の爲に、他の部分を犧牲に供し、或は他國を侵略して領土を擴げ、以てます〳〵國民の嫉惡をはぐくみ、我執をつのらせ行くが如きことは、如何なる口實の下にも許されないことであらう。（時としては大義を天下に布かんが爲に、他國に干渉するといふが如きこともあるべきであらうが、それは國家として、全く我執の囚はれより脫し得たる後のことである。）要するに凡ての施政は相互の我執を取去り、自他一體の感を啓發成育せしめ、其中にありて、各人の性能を自由に活動發展せしむる機會を與へ、以て出來る丈多く、天國淨土に近け行かねばならぬ。國家の理想上の目的は玆に存し、國家としての天職正義は玆に存し、而して此を實現し行

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

く所に國家存在の意義も理由も存するのであるまいか。

(三)

今や國民の大多數を占むる所謂勞働階級の人々は、生活の安定と充足とを要求し、人格の權利を主張し且つ其認識を要求し、此目的を達する爲に、社會制度の改革を要求しつゝある。階級の爭闘ますく甚しきに及べば國家存立の基礎もこれが爲に動搖し來るであらう。勞働問題の容易ならぬものなることは今更言ふまでもない。現今の國家が亡びて、他の社會が建てられたる時、果して現今の國家がなし得るほどに、自他一體感を啓發し、若しくは之を維持し行くことを得るや否やは一大問題であらう。併しながら國民が互に我執を逞しうして相分裂し嫉惡闘爭を續くるに於ては、外部の事情より來る自他一體感は甚だ微弱になり行きて、國家存立の生命は遂に自づから滅せざるを得ないのである。

此の如き危殆なる勢より國家を救はんが爲に、社會制度の改革を以てすることは、もとより結構なことであらう。制度は一の型式に過ぎないものであるけれども、凡そ型式は精神を馴致し、育成し、保護するの效力を有するものであるから、一の制度は他の制度より優ることを得るものなること勿論である。併しながら、曾て所謂一の惡制度を成立せしむるに至つた根本の精神、究極の原因が拔き去られないならば、折角の立派なる制度でも、存外にその效力が尠ないであらう。

然らば現制度を成立せしめたる根本原因は何であらうか。或論者(例せば唯物史觀を採る人)の所謂物質的條件の如き、與つて大に力あるものであらうが、併しそれは要するに一の緣に外ならない。眞正の根本原因は、唯物史觀の論者も、生存競爭といふ事實に於て認めてをる如く、個人の生存欲であり、優越欲であり、其の內容となつてをる各自の性能を自由に活動發展せしめんとする欲求であるといふべきであらう。併しながら此等の欲求は人間本有の天性であつて、それ自身に於て、何も惡いものではない。寧ろ善惡の範疇を超越してをるといふべきである。只それが一の制度(例せば資本制度)を作り出し、その制度が惡制度といはるゝ所以のものは、その制度が惱みの因緣となつてをるからである。然らば人は、何が故に、それによりて惱みを感ずるかといふに、前にも申したる通り、畢竟するに、自他一體感に住すること能はず個體のうちに我を認め、その我に執着するからである。人もし我執の囚縛を脫し、自他一體を體驗する時、卽ち別の生命に入る、(新しき生命を受くるといつてもよい)。人此の新たなる生命に活きる時、玆に始めて人格の尊嚴を感ずるのである。此の新生命に活くる人格の貴さは、肉の生死や、世の榮辱などによりて累はさるゝものではない。生くるも可、死するも可、富むも可、貧するも可、勝つも可、負くるも可、榮枯盛衰、文明進化、すべて遊戲三昧と化し去るのである。隨ひて一の制度位が嫉惡の種子となり、苦惱の根源となる筈がないのであるし、ま

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

た強ひて一の制度を固執し、無理に之を維持せんとするにも及ばないのである。要するに或る制度を惡み、或は之を固持せんとするに至れる所以のものは、人々の我執であり、人々の間に自他一體感の存せざるが故であると謂はねばならぬ。

上述の立場よりいふならば、所謂惡制度成立の根本精神、究極の原因は、天賦の（儘の、未だ我執に染まざる）生存欲、優越欲といふよりは、寧ろ人をして自他一體感に住することを妨ぐる我執にありと謂ふべきである。即ち制度の如何は寧ろ根本の問題ではないのであるが、我執の充ち滿ちたる此世であるから、成るべく、我執をつのらせず、惱みの種子を少くするやうに、制度を改革し行くことは決して無要のことではなく、甚だ結構なことゝ謂つべきである。只これと同時に自他一體感を祈り出す作用の必要なることも忘れてはならぬ。私共、不德不明不敏ながらに、竊かに努めて、たどり行かんとする懺悔奉仕の生活は此の後者に屬するのである。

（四）

然らば勞働問題に對する懺悔奉仕の態度は如何。順逆の方便、決して一樣ではないのであるが、私共の立場は大概、次の二つに分けることが出來るやうである。

其一　は生命財能等、おのが所有と思へる一切を一度、光明に返し、佛に委ね神に養はるゝ生活の、此世に於て最も安定充足なることを實證し、他の要求に應じて奉仕し、以て潜める自他一體感を拜み出し祈り出さんとすることである。之を祈りの生活、菩提心の托鉢などとも名けて居る。併し私共は、此の如き道に志しては居るが、未だ十分に達し得ざるものであるから、身を一の道場に托して、此の生活にいそしまねばならぬ。一燈園生活は卽ち是である。

其二　は宣光社經營である。宣光社の形相も種々であるが、之を勞働問題に結びつけていふならば、神より又は人より信託せられたる財物に對し、或は勞働者となり、或は財物の預り人となり、その財産の管理整理に從事し、此の生活に順應しつゝ、その中に不二の光明によれる眞生活を成就せんと試むることである。德足らず、才足らず、力足らず、とかくに世の我執に染み易き身なるが故に、常に懺悔の心を持して、奉仕の誠を致さんことに努めんとするのである。

以上の二つの詳しきことにつきては松下、伊藤兩兄の說述に讓りたいと思ふが、要するに私共は、一燈園、宣光社を隨所に建立現成せしめつゝ行くことによりて、勞働問題に對せんとするのである。種々の立場より種々の對應策を講ずること、孰れも皆それ／＼の因緣をなすものであるから、一概に是非すべきことではないと思ふ。只根本的解決の、少くも重もなる一つは、懺悔奉仕の精神を以て從事するにありと、私共は信ずるのである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

生活安定策

松下吉衛

はしがき

此頃の新聞雜誌を見るに改造解放乃至安定策の論議研究の盛んなる殆んど應接に遑なき次第であるが其の齎せる實績の思ひの外に貧弱なるは何が故ぞ。

論者各見る所あり、一概に評し去るは固より許されまいが一つの共通的缺陷あるは最も無難に指摘し得らるゝことゝ信ずる。

然らば謂ふ所の「共通的缺陷」とは何ぞや。曰く「日本の現狀に立脚せざる机上皮相の見」なること是れ。

私かに付るに、今、論議の限りを盡せる觀ある「勞働問題」を提げて我等の愚見を徵せらるゝ先達長老の意も亦こゝにあるか否か。

若し夫れ此の小論の筆者に「汝のものこそ日本の現狀に立脚せる具體的徹底的名論なるか」と敢而問ふ者あらば、筆者は言下に答へんとす。

曰く「名論か否かは知らず、たゞ平生信行のまゝを偽りなく告白せるのみ」と。

愚見によれば一切の生活不安の根源は、本來有つ可らざるもの（有形無形に論なく）を「私に有つ」ところに伏在するらしい。若し之を眞なりとすれば、逆に「私に有たざる」生活の充實味が實證せられる時、問題は自らなる解決を示すであらう。

されば本論提唱「私に有たざる生活」「奉仕日運動」の徹底と普及は何ものにも增して緊急事なるを確信する。

更に一言の附加すべきあり。贅說するまでもなく、靈と肉と、精神と物質とはもと相即不二のもの。本論の配列を見て前者を重しとし後者を輕んずとなさば蓋し筆者を知らざるものか。

（一）個人策

私に有たざる生活の提唱

プラス八時間勞働主義

（二）團體策

奉仕日運動

社會問題研究會

趣味機關普及

勞働組合運動

普通選擧運動

家庭巡回委員制新設

（三）國策

甲　對內策

イ　教學的

言論結社の自由を拘束する諸法制の撤廢
人格觀念平等思想と矛盾する諸法制の撤廢
國民教育の改善
禁酒法制定

ロ　政治經濟的

普通選擧法實施
勞働組合公認
工場法改革
社會的立法
物價調節策
税制整理
特殊會社保護條令撤廢
取引所法改革
日用品生産業國營調査會設立
營養研究所設立

乙　對外策

永遠平和の大理想

（一）個人策

私に有たざる生活の提唱

ほんとうに生きがひのある充實した生活といふ見地からすれば、有産者常に必ずしも無産者より優れて居るとは斷ぜられまい。本來有つ可からざるものを有ち、之に依り賴み、之を唯一の誇りとしての生活が、本質上著しく退嬰的偏局的寄生的であつて、そこに創造の歡喜もなく自由の躍動もなく、魂は萎靡して生氣を失ひ、往々にして生きる爲めの所有物が反つて生命そのものゝ禍をなしてゐる事實に面接する時、私はいつも生物進化のプロセスに於ける甲殼類の特殊な地位を聯想させられる。何といふ身動きもならぬぎごちなさであらう。所有物に縛されて僅かに住み心地よき邸宅と安價卑俗なる趣味とに人生の凡てを我れと局限せんとは。かくて把持し得る所、低級感情の小滿足の外に何物ぞや。

學者的論議は暫く措く、賃銀鐵則に支配される傾向の否み難き無産者生活のみぢめさは今更論なきこと。彼等の「有たざる」は、有ちたくも有ち得ない「有たざる生活」なのである。本論提唱「私に有たざる生活」を去ること万々里。正に聖書に說く所の「有たざるものは更に奪はれ……」の悲しき運命の者に當らうか。

又、有つ有たぬは、獨り財物にのみ限らるべきではない。學者の我見と漫然たる物知り顏が、人間味の減殺に暴逆すぎる働きをなして居る事實を私は少からず見せられて居る。入宋見學幾年、道元禪師は「空手還鄕」と喝破されたではないか。天理教祖も「學者とものもち後まはし……」とその御神樂歌に詠まれて居る。徹底的なる生活安定策の獨り物質にのみ依る可からざる知るべきの

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

み。

かくて私は凡てのものに凡てのものからの解放を求めねばならぬ。

有産者はその專有する財物の囚はれから、無産者は動もすればその陷り易い偏見と反抗心から、學者知者も同じくその獨斷論の桎梏と誤られた自尊心から、各解放されねばならぬ。而して皆「私に有たざる生活」にまで徹底することを要とする。

こゝに謂ふ所の「私に有たざる生活」とは文字通りに何一つ所有しない生き方である。身命も財物もイズムも一切を打ち捨てゝ見えざるある聖なる力に任せきつた生き方である。

「それでも生きるには食物や着物が入用ではないか」とは必然に起る疑問であらう。私は問者に對してたゞ次の如く答ふべきことを知つてゐる。曰く「生きる爲めに食物着物の入用なること改めて云ふまでもなし。たゞ此等のものゝ扱ひ方が根本的に違ふのみ」と。

我等の貧弱なる體驗によるも、一切を捨てゝ私に有たざる生活に立てば何人も自然に又必然に他に對して奉仕したい氣持ちが何處よりともなく湧出して來るやに思はれる。（親しき體驗のみ此の事實を肯定するであらう）かくて他に對して純粹奉仕の生活に入れば、自他一體の實感は、雇ふ人雇はるゝ人、有產者無產者、智者愚者の差別觀を人心から拭ひ去る。そこには賃銀値上時間短縮の運動が存在を許されないと同時に、勞働の强制も剩餘價値の掠奪も、人間の恥として退けられる。資本の勢力範圍外の別天地は、かくて此の世ながらにして實現される。生きようとして生きるでなく許されて生きる生き方！　その充實味は親しき體驗のみよく人に其の眞實を告げるであらう。

「汝の說く所は理に於て可なり。たゞ資本主義全能の現代に實行果して可能なりや」とは次いで起るべき疑問であらう。私はこれにも肯定の返答を與へ得る體驗（それは著しく貧弱なものではあらうが）に裏付けられた道德的勇氣あることを誇りとする。

然らばどう實行しようか。

曰く、有てるもの一切（身命財イズム）を捨てゝ路頭に立つにある。妻あらば妻諸共に、子あらば子諸共に。何物をも顧みず又何事をも慮らず、御旨にお任せする如き心地にて。（佛家は此の事に名けて出家といひ、基督者は呼んで洗禮となしてをる）

これ或は智慧の果を食へる現代人には、痴人夢を說くの類とも聞こえよう。又大多數者にとり全力全身を傾注し辛うじて食ふや食はずの生活が許されてゐる程に行き詰つた現代に「所有」を捨てゝかゝるなどゝはドンキホーテならざる限り、とても眞似られぬ藝當であると一笑に附し去る人も少くなからうが、私はかういふ人達に試みに反問したい。「さういふあなた方の生活には果してどれ程の安定味があるか」と。

卑見によれば、お互に生きよう〳〵と焦ればこそ反つ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

て生きにくゝなるのではあるまいか。それは人として生存欲のないものはなからうが、生存欲に執着し生存權を高調してかゝれば、遂には力の競爭となり、强い者（必ずしも善者ならざる）勝ちとなり、勢の赴く所、他を侵し過分に專有して平然たる者の輩出を見るに至るのではあるまいか。

産業に機械と動力の應用盛んなる現時の如くなれば若し商品生産の營利主義に代ふるに、用品生産の公共主義を以てする時、國民の生活資料に不足を告げるやうのことなき殆んど自明の理であるのに、物價騰貴、生活不安の訴への喧しいのは思ふに生存欲乃至生存權思想の高調が禍根をなしてゐるのではあるまいか。

云ふまでもなく私とて「生きたいといふ願望」そのものまでを否定しようとするものではない。否定しようにも否定し得ない事實として「人は皆生きたがつてゐる。」單に生き存へようとするばかりでなく、常により善く生きようとし、生きがひのある充實した生き方をしようとしてゐる。實を云へば「一切を捨てよ」との叫びも、又「私に有たざる生活」の提唱も此の人心至深の願望を萬人に等しく叶はしめんとの微衷からに外ならない。「生きる爲めには死なねばならぬ。」私はト翁と共に此のパラドックスを高唱せねばならぬ人間の運命を思ふ時、一種悲痛の感に打たれる。

「一切を捨てた生活」「私に有たざる生活」は單なる言說に止まつてはならない。多くの論者も人間に「善くなれ」とは命じて居る。私は「事實をして事實を語らしめる」道を採ばう。

此頃識者の一部に認められて來た一燈園といふ一種の教團がある。それは教團とは云ひ條、別に何宗に依つてゐるといふわけではなく又新たに一宗を立てようとしてゐるのでもない。たゞ現代生活不安の根源を探ねて所有欲の囚はれにありとし、「私に有たざる生活」の實證を使命として立つて居るものである。資本主義横行の間に處してよくその支配外に奉仕の生活を行じ無一物にして而かも有り足る事實を示してゐる。有り足るとは獨り物質的意味に於てゞはない。「行うて餘力あれば則ち文を學ぶ」の格で、所謂文化價値の創造にも參じてゐるのである。これは議論でなく何人にも檢討の自由が完全に開かれてゐる目前現在の事實なのである。「學ぶや祿その中にあり」「道心に衣食あり」「肉體の爲めに何を食ひ何を着んとて思ひ煩ふ勿れ。先づ神の國とその義しきとを求めよ」等の聖言が同人の生活にはさながらに具体化されてゐるのを見る。

思ふに今は小感情、徒黨心、宗派根性等にかゝはつて醜い眞似などしてをる可き時期ではない。眞實を求める爲めに、一切の生活不安を根絶する爲めに、私共は結び合ひ助け合ひ、缺けたるを責むる代りに足らざるを補ひ合ひして信行の一途をいそしむべきである。

かくてこの「私に有たざる生活」の提唱も問題解決の一案たるに於いて諸賢の批正を是非に煩はしたい。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

プラス八時間勞働主義

　當今の憂は、一部遊食者を除き、働く分量の不足と云はんより寧ろ働き方のマイナスなるにあるを信ずる。世間は實に忙がしい、めまぐるしい程に忙がしい。電車も滿員汽車も滿員鉄道各驛の滯貨は山と積まれてゐるといふ有樣。しかも仔細に觀察すれば、この中どれ丈が果してプラスの働きに價して居るか。私共の日常の行動からなくもがなの働き、相殺的の働き、奪ひ合ひの働き等を除けば、何がどれ程殘るであらう。八時間はさて措き、七時間でも六時間でも日々プラスの働きを皆がきまつてするやうになれば、物質の裕かさはどんなにか加へられよう、人の世はどんなに住みよくされよう。

　プラスとマイナスの區別は客觀的に概念的に規定され難いけれど、各自內觀自省に訴ふれば必ずしも判別に苦しむ事柄ではないと信ずる。

　高遠なる世界改造の理想もかうした卑近なる自己改造の實行を拔きにしては一の空しき流行語として滅び行く外はあるまい。プラス八時間勞働主義を高唱する所以。

（二）團體策

奉仕日運動

「往き易くして人なし」と古聖も嘆ぜられた如く、前

に說く所の「私に有たざる生活」は境遇上又素質上餘程惠まれた人でないと、獨り身を挺して行すること、經驗上中々容易くないやうに思はれる。

　そこで私は「私に有たざる生活」の修行所といふ程の意味で、こゝに「奉仕日會」の組織を提議したい。頭腦の遊戲に屬することなら、思ふさま甲論乙駁するに任せて置いて差支あるまいが、かうした實生活の核心に觸れてゐる眞劍な問題に關しては、たゞ憶測や想像をもつて善惡是非を云々するに止めず、須らく體驗に訴へてまで之を究明する誠實があつてほしい。

　私共は又善美を極めた論議には聽き飽いてゐる。實現の可能性に乏しい立言は最早顧るを要すまい。論壇にも近頃討論終結の叫びを聞く。ソロ〳〵第一步を步み出しても尙早を云ふ人はあるまい。

　扨て奉仕日會の內容について述べようなら

一、每月第一及第三日曜を奉仕日とする。
　（漸次奉仕日は增して行くこと）

一、奉仕日には「有たざる生活」を体驗する爲め會員は奉仕の精神にて左の如き事柄を實行する。

イ、他家へ赴き何用なりと（拭き掃除、子供の世話看病、野良仕事等）辨じさせて貰ふこと。

ロ、公園學校鎭守社道路等の掃除修繕整理をさせて貰ふこと。

ハ、特に此の日に限つて裁かないこと、爭はないこと、酒と煙草をつゝしむこと。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

二、プラス八時間勞働主義勵行のこと。
但し休日を取る事を許されない會員は、奉仕日に限りその日常事務を特に奉仕の精神にて扱ひ、與へられた報酬は（私の所有物）と心得ず、必要な丈を頂かせて貰うて、餘りあらば何か私ならざる善い事に仕向けること。

一、會員は會員章を常に着けること、未知と既知とに論なく會へば必ず合掌禮拜し合ふこと。

名は何とつけてもよい、誰がどこで發起しようと妨げない。かうした精神運動が全社會に普及するに至れば、流血の悲慘にまで走り易い階級鬪爭の形式によらないで、萬人呪咀の的なる資本主義の妖怪も、或は手もなく退治ることが出來るのではあるまいか。少く共資本家の横暴乃至勞働運動の險惡化（もし起らば）を牽制するに與つて力あるべきを確信する。

社會問題研究會

私はこゝでマルクスの剩餘價値説と經濟的唯物史觀と階級鬪爭説とにどれ丈の眞理が含んでゐるかを人と爭ふ氣はない。又我國固有の美風なりとせらるゝ家族制度の維持を以て國民生活の安定を期し得るや否やについて論者と意見を戰はしたいとも思つてゐない。たゞ問題は學説の如何に拘らず制度の善惡に依らず現前打消しようのない事實として、同盟罷工同盟怠業が隨所に續發してゐることである。これが我國と國狀民俗を異にせる歐米にのみ行はれてゐた間は、縱の組合横の組合の、勞資協調會溫情主義との閑談茶話の餘裕もあつたらうが、我々の當面の問題國民生活の脅威たるに至つては、今にして徹底せる根本的對策の確立を計らずんば、後で取り返しのつかぬ事になりはすまいか。

こゝに一事の明かなるがある。現時見るが如き社會的生産法を以てせる生産物の分配は、「公正」を考慮の中に加へては到底不可能事に近いといふことである。例を以て之を說けば、今私が走らせつゝある万年筆は五圓なにがしの價格を以て購つたものであるが、此の實上代金は如何いふ公正な標準で、商人、職工、原料生産者、企業家、資本家等の間に分配されてゐるのだらう。それからそれへと溯つて考へて見るのに、極めて不合理な殆んど奪ひ合ひに近いと云つてもよい取扱を受けて來てゐると認めざるを得ないのである。こゝには何物にも增して――眞理は顧みられず、法律の制裁は及ばず、帝王の威武も如何ともするなし――資本のみその暴力を恣にする。

問題の禍根はこゝに伏在するのではあるまいか。

自給自足の家内手工業時代なら知らないこと、斯く社會的生産法の普及し一般化せる現代に、本來分つ可からざるものを强ひて力づくで奪ひ合つて居る。社會大多數者の生活不安の醱酵素はこゝに醞釀されてゐるのではあるまいか。私は此の事實を科學的に究明しそれを民衆の

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

知識としたい。此の目的の爲めに社會問題研究會を起し普ねく民衆の間に眞理の大宣傳を試むべきことを憂國の士と共に計りたい。講演可し、平易なパンフレット可し、機關紙の發行可し。

趣味機關普及

生活不安は經濟問題であること勿論であるが、一方趣味乃至一般社會風潮と無關係には到底取扱ひ難いと信ぜられる。といふ意は、誤られた儒教思想の影響の故か、我國の社會生活には一種のぎごちない囚はれがある。それは何でもかでも善惡の範疇に律して人を裁き過ぎる弊風であり、そこから或る値打ちあるものが産れると考へてゐる謬想である。

私は此の弊風と謬想を打破したい、此の囚はれから愛する同胞を解放したい。

此の目的の爲めに民衆趣味機關の普及を高唱する。靑年團在鄕軍人會の爲めに拂ひつゝある財と力の一半を割いて此れに向けるなら、私共の社會生活はどんなにかハーモニアスになりゆとりが出てくることであらう。鄕土研究會可なり、劇の私演可なり、各種競技會可なり、精撰されたものなら活動寫眞、蓄音器の利用も妨げなからう。(趣味の低下には充分意を用ゐて警戒すること勿論である)

明治維新以來、泰西文物の移植に、ロク／＼足も地につかぬ程の驅け足を續けさせられて來た我が國は無思慮に又無差別に古きもの新しきものゝ置き換へを餘儀なくさせられたので、過渡期のこと已むを得なかつたのか、現在見るが如き荒み切つたギャップだらけな文明を形造る結果とはなつたのである。此のギャップの大きな一つは、正に民衆趣味の缺如乃至低劣にあることゝ信ぜられる。生活改造のメスは此の點を遺棄してはなるまい。

勞働組合運動

旣に今日の如く階級意識が鮮明となり階級鬪爭さへ盛んに行はれるに至つては、勞働組合を認めるの認めないのと、今更議論を上下したからとて徒らに識者の嘲笑を買ふに過ぎまい。當局に於ても例の治安警察法第十七條とやらを楯に壓迫を加へて見てからが幾人かの刑事犯罪人を出して表面上一時の鎭靜を齎すことは出來ようけれど、鬪爭の由來する根源にして除去されない以上、事態はかくて寧ろ惡化の傾向を取り來つて、勢の赴く所、秘密結社となり暗殺の慘劇となるのではあるまいか。遠く例證を歐米に採る迄もなく、我國近時に於ける勞働運動の趨勢は明かに此の事に裏書きして居る。

されば問題は最早勞働運動をどう善導するかまで進展して居ると見るべきである。

勿論勞働組合を公認すれば一時同盟罷工の頻發を來すであらうとの豫測にも根據はあるが、その運動に訓練と節制とが加へられて輕擧妄動の風確かに激減するであらうとの推定には、より多くの眞理を含むことを歐米の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

勞働運動史が明白に立證してゐる。

傳へられる如くんば來るべき議會には現內閣も愈勞働組合法案を提出する運びになつて居るさうである。內容の發表されない今日之れに對して決定的批評の下しやうもないが、從來公にされたその政見等に照し見るに、恐らく縱斷組合主義と勞資協調主義との埒外に出でぬものではあるまいか。若し此の推測にして誤らないとすれば今、狂暴を極めつゝある階級鬪爭の氣勢を沈靜せしむるに於て、果してどれ程の實効を擧げ得べきや頗る疑はしいものがあるのみならず、或は人爲的に强ひて運動の徑路を局限せんとするより豫想外な反撥的氣勢を昂めはすまいかと杞憂される。

されば人々は與へられるのを持つことなしに、最も自然な又自由な勞働組合の組織並に運動に着々步武を進める可きである。而して組合員に又廣く勞働階級に、現時に於ける勞働運動の眞目標の啻に賃銀値上、時間短縮等の物質的改善に止まらず、實に勞働非商品主義の實現、換言すれば全人類の解放にあることを徹底的に自覺せしめたい。勞働者にして一度此の自覺をもつに至れば沒常識的に物質的利權の要求をなすを以て能事了れりとするやうのことなく、社會に對する勞働者の地位と責任とを確知するは勿論、一個耿々たる人道的戰士たるの誇りを傷けざらんと務めるであらう。豚となつて飽食せんより人格として缺乏に堪ゆるの道を撰ぶであらう。

かくの如くならしめるには、勞働組合それ自らが一の教育機關を以て任ずることを要する。夜學校講習會等を常置して組合員の知見開發に務むべきは勿論、必要に應じては技術教育さへ行ふべきである。

又組合には賃銀、營養食料、外國勞働事情其他の研究調査機關を是非附設したい。

私は現下の我が國狀に鑑み、勞働組合組織上、職業別組合主義と產業別組合主義と何れを採用すべきかを判ずるに躊躇する。何れの主義によるも妨げないではないか。要はたゞほんものでありさへすればよい。友愛會に賛同したいものは進んで之れに與するがよい。信友會型を便宜とする事情の下にあるものは猶豫なくその組織に取り掛るがよい。

矢は將に弦より放たれんとしてゐる。我等はたゞ赤心こめて「的へ！」「的へ！」と祈るだけである。

普通選擧運動

勞働組合組織と共に普通選擧實施の要求は今や我國識者並に一般民衆の輿論であつて、最早議論の時代はとうに過ぎ去つたと云はれて居る。政黨者流でさへ「理想としては無論普通選擧に賛成だが、今急かに實施するとしては問題だ」位な說は立てゝ居る。

私は一部論者の如く、普通選擧制さへ布かれるなら直ちに根本的な社會改造が成さるべしと考ふる程に制度の

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

力を過信する者ではないが、各人の道徳意識がその主として屬する集團の生活方向によつて著しく影響されることを認める以上、今あるがまゝに、「有てる集團」乃至その代辨者の掌中に政治の實權を委ねて安んじてゐるわけには行かない。現に先頃開かれた憲政會臨時大會席上に於ける加藤總裁の演説にしても内外の情勢に鑑み野黨として此際是非普選案を以て在朝黨に一戰を挑むべきに、縷々數万言の大雄辯中遂に一言半句の此の事に言及せるものなきは如何。野黨すでに此の體たらくである。政府者の頼む可からざる、貴族院樞密院乃至官僚軍閥系等の固より更に頼む可からざる知るべきのみ。

國民生活安定策上、勞働組合法をはじめ諸種の社會的立法の必要は今後益々加へらるべきであるのに、此の如くんば、一旦民衆が合法的手段を以てしては到底目的實現の不可能なるを知るに於ては、何時如何なる恐ろしい變態現象を惹起せぬとも限られまい。資本主義的生産の出現を見ながら、一の工場法らしき工場法さへ持たない我國の現狀である。國際勞働會議に於て特殊國たる除外例を承認せしむるに成功したる我が勞働委員は大分得々たる有樣であるが、今はさういふ枝葉の事に拘つて居るべき秋であらうか。私は此間所用あつて京阪神の間を往來したが、それとなく耳朶に觸れ來る車中の客の會話にも、ある恐ろしいことの豫感を覺えさせられた。風は既に樓に滿ち亘つてゐるのではあるまいか。山雨の到る必定とすれば、世に勝れたる賢者ならずとも、雨戸をくる位の用意がなくては叶はじ。二階の上段の間にその人が居らぬとすれば下座敷から馳せ上つてなり戸袋に手を挿入れねばなるまい。

明治前期に於ける自由民權運動が憲法發布を將來せる一大動力であつたことを敎へられて居る我等は、普通選擧要求上採るべき方策について無知である筈はないと信ずる。

家庭巡回委員制新設

此の制度は專門家にとり別段耳新しいものでなく歐米の進んだ自治體では夙に實施を見て居り、確か一兩年前大阪府でもこれに似よつたものを始めたと記憶して居るが、社會救濟事業もこゝまで來ねば、割りに實効を擧げ得まいと思ふ。

さて此の制度の仕組であるが、これは市なり町なり村なりを便宜上幾つかの區劃に分ち各區劃毎に公選乃至囑託の家庭巡回委員を常置して救濟を要すべき家庭の實況を具さに調査申告せしめ、市役所乃至村役場は之に本づいて救助金を交附するなり醫師看護婦産婆敎員等を派遣するなり適宜の處置を執ることになるのである。

救濟事業の基調的精神が慈惠主義より社會連帶責任の思想に移りつゝある今日、私は如上の制度が少くとも全國主要なる市町によつて採用せられることを望んで止まないものである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

(二)　國　策

生活の不安は「知り」ながらも之を「感ず」ること絶無なる若しくは切實なるを得ざる「有てる階級」によつて決定的支配權の掌握されて居る現在の我が國政に對して、社會本位の福利增進策乃至國民總体の生活安定策が果して如何なる程度にまで期待し得らるべきやは固より大なる謎の一種であらねばならぬ。私は今こゝで此の難解なる謎を强ひて釋かんとする者ではないが、積極策は暫らく云はず、せめて消極的善位は望んで必ずしも得べからざる事ではないと信じたい。所謂の消極的善とは他なし、超階級的見地から考察して社會の安寧と國家の進歩とを本質的に紊亂し妨害しない限り、個人乃至團体の自由と活動とを束縛したり壓迫したりしないことである。たゞ筆者に已み難き微衷あり、同胞安泰のいのりは所詮無用の文字と知れど、積極策についても所信の開陳を餘儀なくせしめる。

(甲)　對　內　策

先づ教學的方面より始めようなら其の第一として

言論結社の自由を拘束する諸法制撤廢

即ち新聞紙法出版法治安警察法の根本的改革を勸說したい。これには議論の餘地はもうなからうと思ふ。

人格觀念平等思想と矛盾する諸法制の撤廢

次には近時頓に發達し來つた人格觀念平等思想と矛盾し撞着してをる法律制度就中公娼制度華族令文官任用令等の撤廢を主張する。

公娼廢止の可否については國民保健の上より未だに兎や角議論を戰はして居る者がある樣であるが、下水に蓋をするしないについて優劣の判斷を誤らない程の常識を具へてゐれば問題は容易に解決されると思ふ。

華族の存廢問題とて然り。國家社會の功勞者に厚く酬い其の德を表彰せんとする思想は、何等咎むべきでないこと勿論であるが、若し其の形式乃至方法にして當を得て居らないやうな場合には、國民の風教を紊り、浮華僞善の惡德を傳播せしめ餘弊の及ぶ所眞に測る可からざるものがあるに至る。皇室の藩屛は國民總体が直々に勤めさせて貰ふに何の不都合があらうか。忠君愛國の一手販賣は苦々しい。

又文官任用令存續論に何程の合理的基礎があるや。ある分量のノート的智識が人生の實務を執る上に役立つ度合は今更說くまでもないこと。實力が餘程口をきく實業界の狀況を官界のそれと對比し來らば思ひ半ばに過ぎん、內治と云はず外交と云はず、國政の現況は暗記力本位の人材登用の弊害を遺憾なく表明してゐるではないか。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

國民教育の改善

國民教育が國民生活の全般に亘つて至大な影響を及ぼすこと今更說くまでもあるまい。されば文政の責任者は常に時代の趨勢に鑑み指導その宜しきを得るやう努めねばならぬ。

一言に敎育の改善と云うても談決して容易でないが其の根本義の一は敎員にその人を得るにありと信ずる。當今の如く大多數の敎員がやつと食べて行けるか行けないか位のみぢめな生活狀態にあるやうでは到底敎育界に人材の集りやうがあるまい。「私に有たざる生活」にまで徹底せる稀有の奉仕者にあらざる限り人間並の生活保證が與へられないでは中々やつて行けるものではない。當局者もこの事には可なり意を注ぎ心を苦しめて居るやうであるが尙此上とも幾層の英斷的處置に出づるを望んで止まない。この外、緊急改善案として敎科書乃至敎員養成機關の劃一主義打破、國家の根本的整理、特志家の學校設立に對する自由、最後に敎育の根源として宗敎の受用等を擧げたい。

禁酒法制定

酒を飮むことそれ自らは大して惡德とも覺えないが之が媒因をなして年々國民の拂はされる無くもがなの犧牲の如何ばかり大なるかを痛感する者は、例へ少々の無理はあつても、禁酒法の實施を望まずに居られないだらう。酒故に身をあやまる靑年のことは暫らく云はず之が爲めに堪ふべからざる家庭の悲劇乃至生活難の醸されつゝある事實は、彼の禁酒運動に充分理由づけるに値すると思ふ。

禁酒法は又云ふまでもなく我が食料政策に極めて密接な關係を持つてゐる。當局の英斷を祈らざるを得ない。

普通選擧法實施

識者の意見は既に普通選擧實施後に於けるその民意代表上不備不足の點をどう補ふかについて種々な工夫考慮が廻らされて居る位までに進んで居る。今更私とてこゝに事新しく重ねて普選實行の急務なる理由を陳述するの忍耐を持たない。

勞働組合公認

政府として此際なし得べき最善事の一は、勞働組合に對し單に認定を與ふるにある。とやかう下手な筋書など附けると反つて事態を險惡ならしめはすまいか。勞働運動の如きその由來する遠く且廣い事柄を限られた少數者の頭腦で都合よく律しようとて到底律し切れるものでもあるまい。勞働運動は勞働運動それ自身のみ最善の方向を選び得る。爲政者のとるべき所はたゞ安全瓣を開けるにある。問題の治安警察法第十七條の撤廢はその必然の歸結であらねばならない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

工場法改革

も亦安全べんの一に數へらるべきであらう。過般開かれた國際勞働會議商派の政府並に資本家側代表委員の說く所をきくに切りに「國家の生產」を云々して勞働時間乃至勞働者年齡問題に特殊の除外例を求めて居たやうであるが、國家の二字に代ゆるに「有てる階級」を以てせぬ限り理不盡も甚だしい。勞働者の眞の要求は人や豚として飽かんより寧ろ人格者として餓えんとするにある。「國家の爲め」の空言に感激せんには彼等は今餘りに醒めすぎて居る。彼等はもう「何の爲めの生產」「誰の爲めの勞働」さへ考へて來て居る。事態まことに此くの如し。私は此際叶ふべくんば

社會的立法

として勞働保險法、職工賠償法、養老年金法乃至最低賃銀法等の制定さへ希望したい。

物價調節策

何と云うても當今の異常なる物價騰貴は國民經濟の調和を害して居ることは爭ふべからざる事實である。思ふに物價騰貴の原因は固より單一でなく從つて之れが對策も多技に亘らうし、或は人力の及ぶ範圍を超えた處にもその遠因は存在して居ようが、通貨の著しき膨脹がその有力なる一大原因と考へられる理由は打消しやうもあるまい。資本閥の思惑がどうあらうと、輿論に聽いて、利子引上、公債募集、海外放資等によつて銳意通貨收縮策を斷行すべきである。又物價調節上、或る品目に限り輸出禁止、關稅撤廢、價格公定等は識者の間に殆んど定論となつて居ることなれば躊躇なく實行してほしい。

稅制整理

稅制整理の聲を聞くことも既に久しいものであるが、今にこれぞといつて著しい改善の行はれないのは如何なる次第であるか。社會的立法の必要と合せ考ふる時、是非とも不勞所得稅法の新設、相續稅法所得稅法の根本的改革を要望してやまない。

特殊會社保護條令撤廢

社會的正義の名に於いては、從來個人の所有と見做されて來た財物も新たに徵收されつゝある今日である。事實上格外の利益を收めて居る航海業者並に殖民地事業者等に依然補助金を下附し續けるの必要何處にありや。又日本銀行はじめ國家の特典に浴する特殊銀行が現在の如く營利主義で運營されてゐるのでは仕方があるまい。政治を呪ふもの政治を避けんとする風は、かくて馴致されるのではあるまいか。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

取引所法改革

「取引所論」を讀むと色々尤もらしい効能が列擧せられて居るが、現在の我が取引所の如きムチヤな點に於て殆んど世界無比と云つてもよいものをヂヤスティファイするわけには行くまい。「經濟界調節の効能」とな！、妄言も甚だし。唯一取引所あるが爲め如何に多くの人々が不當に遊食し不當に破産し引いて生活の向上と安定とを阻害されつゝあることぞ！　而も現存の立法府と政府者とに其の改革を望むは百年河清を待つが如けん。未能力（敢て無力と云はず）の我等是に於て拱手せざらんとするも得べからず。寧ろ「カイゼルのものはカイゼルに返す」の道を選ばんか。

日用品生産業國營調査會設立

少く共日用品生産業位は國營とならなければ、我等が生活の不安は社會的には除去され難いと思ふ。今急に之を實施せよと迫るのは或は無理かも知れないが、早晩かうした制度の必要が生じ來る事は殆んど疑ひやうがなからうから、今にして之が調査會を組織することと決して尙早ではあるまい。但しこゝに謂ふ所の國營とは鐵道院其他の官營事業に見る如き名を國營に假りたる一種の國庫增收策と同一視すべからざること勿論である。從つて調査會の組織も著しくデモクラチックの色彩をとるべきである。

營養研究所

産地の限られたる水田米を常食とする我等にとり、食糧政策は特に緊急事である。耕作法乃至關稅政策の改善と共に、專門學者を聘して營養品研究に從はしめ、食糧政策乃至家政の上にも科學的基礎を與ふることが焦眉の急務の一かと思はれる。

（乙）對外策

永遠平和の大理想

我等が祖國は幸か不幸か面積は狹し天與の資料は乏し物質的繁榮を以て世界に誇らんとしても、所詮叶はぬ願ひである。米國の富は一人宛四千四百圓ある、日本は僅僅四百圓に過ぎない、大いに富强を計らなくてはならない。外國品は成る可く買ふな海外へドシ〳〵賣出すべしと力み反つた所で仕樣がないではないか。日本は日本でよいと思ふ。何を苦しんで米國を眞似、英國を羨むの要があらう。强ひて東亞の一隅にすつこんで拗ね者氣取れといふのではないが、靜かに考へて見れば、何處の國にもさうある如く、我等が祖國にも與へられた獨自の使命があるやうに信ぜられる。此の使命を自覺することなしに、徒らに列强の鼻息を窺つて去就を決し行動を左右し憐みを盟邦に乞うて僅かに形式上の體面を維持して行く

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

やうでは心細い極みである。這般巴里に行はれた國際會議の實狀を知るに及んで殊に此の感を深うするものがある。

私かに思ふ、我が國こそ永遠平和の大理想を高くかざして國際聯盟運動に主動者的地位をとるべきではあるまいか。此の事を外にしては我等の祖國が世界の文運に貢獻すべき何物を有ち得るか。學術に技藝に始終お世話になり勝ちな諸外國に眞に報いる所以も恐らく他にあるまい。これ程の世界に奉公せんとする志操なくしては、合理的には文化國として存在理由も危ぶまれるではないか。

山東の一角をワシントン邊からさへブツ／＼云はれながら手に收め得たからとて、同文中華の國民に百年の恨を殘しては何にならう。ヤルート島其他の委任管理とて然り。獨逸國民の呪ふべきでなく獨逸國一部支配階級の抱懷せる軍國主義精神の厭ふべきであるに過ぎない。今尙(而して恐らく今後しばらくは)聯合側諸國の支配思想たる資本主義はそれ自身檢討さるべき餘地なきものなりや否や。私はカイゼルなき獨逸國民に對して「兄弟よ」と呼び掛けたい衝動の禁じ難きものあるを感ずる。獨逸語の讀めない私は、獨逸書なしには大學の講義に困るといふ博士に共鳴してゞはなく、たゞ人間たる卒直な實感からかく叫ぶものである。

かくて私は西比利亞よりの急速な撤兵をも强要したい。又朝鮮には自治を與ふる根本方針を樹てよと叫ばざるを得ない。

何故國際道德が個人道德と爾く區別されねばならぬのかとは、私の小學時代よりの解き難き謎であつた。學校の先生に尋ねても不明であり、家庭の長老に聞いても要領は得られなかつた。今私は年久しくも私をさいなんだ此の謎を事實に於て我が祖國をして解かしめたい熱誠に燃えて居る。(此の熱誠が萬一裏切られでもするなら、祖國は、日本はその育くんだ青年の少く共一人を永遠に失ふであらう。)

今、虎視耽々たる世界列强の間に徹底して丸腰となり懺悔の態度に出づる國ありとせば、世界はその生肉を奪ひ合ひむしり合つて分ち食うかどうか。列强はもう鬪爭にはヘトヘトに疲れ切つてゐる筈であるが、人類の苦行ももう大抵澤山だと思へるが……。

(一九一九、一二、七)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

宣光社の概要

伊藤猛

宣光社は、我等が畏敬する先覺の提唱なり。余は今之に付て學び得たる所を骨子として、其輪廓を書かんとす。元より余に於て、何等創造したる所なし。只蛇足を加へて、却つて、先覺の眞意を誤れる點なきやを恐る。而も此一篇を公にする所以は先覺並に諸賢の是正を乞ひ、以て研究に資せんが爲に外ならず。讀者幸に諒せられん事を。

一、宣光社の意義

宣光社は、隨喜供託されたる財貨事業の整理經營に從事する機關にして、(天華香洞に立ちて)其目的は、世間の執迷紛爭葛藤を根絶し、以て、齊家治國平天下の實を擧げん事を期するにあり。即ち小は一坪の土地より、大は國家的世界的大事業に到る迄、普ねく、葛藤と紛爭の因とならざる方法を以て、眞に利用厚生の資となさんとするにあり。而して、其使命は資生産業に即して、眞道を行ずるにあり。かくて、我宣光社は、一切の産業と第一義との關係について、研究實證し、以て、世に模範を示し、現時社會深憂の難問たる、經濟問題乃至社會問題の徹底的解決の一參考資料を提供せん事を期す。

かゝる抱負を以て生れたる我宣光社は、肯て生産問題を閑却するものにあらざれども、勢ひ分配問題の解決を以て、其研究の中樞となす。私有財產制度と自由競爭に基づく營利主義の上に築かれたる、現代資本主義經濟組織の缺陷が、主として、分配問題に存するを思へば、之亦止むを得ざる所なるべし。

二、宣光社の資本

宣光社の資本を分つて、精神的資本(文字稍妥當を缺くも)と物質的資本の二となす。精神的資本は、物質的資本の根源にして、不二の光明即之なり。物質的資本は投影淨財なり。夫れ我が天華香洞の行乞は、一度其妻子眷屬財產其他一切を、不二の光明に返還し、玆に、復活新生し、神に許され、佛に養はれて、生を享くるものなり。されば、彼等は私有の資財を有せず、皆無一物に安住す。彼等が、不二の光明に返し奉りし財貨を、假りに名けて投影淨財と呼ぶ。我宣光社の資本はかくして隨喜供託されたる淨財よりなる。宣光社の資本は、供託資本の運營によりて增殖せらるゝ事あるべしと雖、新たに其增大を祈願するに當りては、如何にして企圖せらるゝや夫は神佛の領域を擴大する事によりてのみ、遂行する事を得べければ、天華香洞、一燈園、宣光社同人の緊張(修道上に於ける)に待つの外なし。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

三、宣光社の管財人

宣光社の眞の持主は、光明なり。されば、宣光社には世の所謂、資本主なるものなし。但し之に該當する者を假りに管財人と呼ぶ。此者は須らく、光明に平伏して、之を預り保管すべきなり。かくて此管財人は、已れと其家族の生活を此預財に仰ぐ事なき者たるを要す。從つて管財人は、常に十字街頭に托鉢する、天華香洞の同人より選定せらるべきなり。

四、宣光社事業の選擇

宣光社は、本來、隨喜供托されたる事業の整理に任ずるを常とす。されど、若し玆に淨財ありて、新規の事業を起す必要ある場合は、如何なる事業を選擇すべきや。之れ研究を要する問題なり。

宣光社の事業は、原則として、諸惡の根本又は助因となるべきものを避くるを可とす。今少しく具體的に述べん。

（イ）成るべく贅澤品を避け、必要品の生産交易を選ぶ事。

我が同胞の中には、翌日の糧をも保證されざる多數の貧者あるを以て、已れ獨り贅澤に耽るは、一種の不德なり。何となれば、贅澤品の消費によりて、必需品の生産交易に向け得べき資本と勞力とを、夫れ丈け減少し、勢ひ其生産費を高め貧者の生活費を增大せしむるの傾向を惹起し、彼等の生活を脅かすの因を作るべければなり。

されど、如何なる事業と雖、社會の需用あり、其種事業の存立を要求せらるゝ場合は、何人か之に當らざるを得ず。かくて、宣光社が、之に當る方世道人心を益すること大なるを認めなば、肯て其經營を辭するの要なし。諸惡を誘致する底の事業に携はる事、元より賛すべきにあらざれども、如上の見地より、此種の事業に從事し、以て眞道を行じ、因緣を辿りて、其周圍に入店垂手し、眞道を成ずるも亦一方便たり。維摩經偈に曰く、「或現作淫女、引諸好色者、先以欲鉤牽、後令入佛智」と。待合遊廓を經營して、漸次に華客を化導し、又藝娼妓を敎化し、眞道に向はしむるが如き、此例にして、既に之を多少實行せる人なきにしもあらず。

（ロ）廢物不用品の利用

一塵一草も神の物なり。一葉の紙片と雖、之を地上に抛棄するが如きは、天物を滅失する所以にして、其加惡しき業なり。世間一般に、新事業を漁り、巨利を競ふてかゝる地味なる點に注目する者稀なり。されば我宣光社は、此種の事業をも經營して、利用厚生の資となし、傍世人に、天物尊重の念を普及徹底せしむるの要あり。

出來る丈け多くの財貨を生産し、且技術上の進歩を計る事は、現在の經濟組織の下に於て、充分に成功せりと稱せらるれども、そは決して、正しき意味に於て成功せるものにあらず。現今の企業家は、只目前の營利に急なるが爲めに、永遠に於て、結局人力並に天然資源の甚だ

しき濫費に歸するをも顧みず。只性急に生産の增大、巨利の獲得を企圖して止まず。我宣光社は、營利の念に驅られて、無我無中に生産の增加を計る現代資本主義制の弊より解脫して、眞に利用厚生の實を擧げ得べき事業を選擇し、其經營に任ぜんとす。

五、宣光社の經營

(イ) 資本の運用

宣光社の資本は、私有物にあらずして、光明のものなれば、此使用消費に付いては、神佛の御心に叶ふやう、細心の注意を要す。即天物尊重の精神より出發して、凡ての原料需用品其他一切の流通資本の有効なる節約と、機械其他固定資本の經濟的使用に最善の努力を要す。

(ロ) 經營主義

余は先に、宣光社は不二の光明を其經營の指針となす事を述べたり、然らば、現今の自由競爭を基調とせる營利經濟社會に於て、天華香洞の無抵抗主義を以て、果して其存續を確保し得るや否や。之何人も疑問とする所なるべし。人一里の公役を强ひなば、二里行き、上着を取るものに、下衣をも與ふるが如きは、第一義者にのみ望み得べく、直に現時の經濟界に適用し難きは、識者を俟たずして明かなり。我宣光社は、不二の光明を經營の根本精神となすと雖、世諦成就のため、假りに財界に生れしものなれば、此世の經濟理法に從つて、運營せらるべきや多言を要せず。最小の勞費を以て、最大の効果を擧ぐてふ經濟原則の適用は勿論、營利自由競爭の經濟行爲をも辭し得ざる場合あるべし。されど、宣光社は、强ひて過分の財を占有せんと欲するものにあらず、只資生産業に携はる因緣上、無理せずして集り來るものを收得せば足れり。即精神的には、玆に入店垂手して、因緣ある人を眞道に導き、物質的には、實業に從事して、利用厚生の實を擧げ、以て神佛と一切に奉仕せんと欲するに外ならず。私有財產制度によりて、永年培はれたる、財物に對する頑强なる執着心——所有欲——は、自利主義を極端に露出し、自由と公正を我等より奪ひ去り、今や我社會に幾多の弊害を流しつゝあり。我宣光社は、不二の光明によりて、所有欲を聖化し、營利主義を淨化するものなり。されば、彼の一般企業家に於て見るが如き、世道人心を害し、國民經濟を攪亂する底の自利的行動を避くる事を得べし。何となれば、一般企業家は營利を只一の目的とすれども、宣光社は、神佛と世間一切に對する奉仕を目的とし、其收益の如き、奉仕に伴ふ供養に過ぎずと觀ずればなり。凡そ宣光社は、其純正無垢なるものにありては、其資本は淨財のみよりなるを以て、現に有するものを、正しく保有すれば足れり。必ずしも强いて之を增殖するの要なし、況んや他を侵略奪取するをや。否進んで他を侵略するは正しからず。かくて我宣光社は其協力者の受くべきものを横取りし、又は詐僞的行爲によりて他の生產者交易者並に消費者より奪取し、以て其

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

収益を増加するを肯んぜず只自己本來の能力を自由活潑に其事業の上に發揮し、奉仕の實を擧ぐれば足れり。而して守成の上に於て、新らたなる權利義務を生ずる事あるべし、又財界の渦中に卷き込まれ、順逆の怒濤に漂はさるゝ事なきを保し難し。之に處するの道如何。曰く無理をせざる範圍に於て、誠心誠意努力精勵し、愈行詰りて進退に窮する場合は、謝罪するの外なし。元來第一義者は、我ならず、我欲ならず、光明のまに〳〵最善の努力を成し、而かも破綻せば、詮方なし。かくて資金全部を損失するも、更に惱まさるゝ事なかるべきなり。されど夫は、第一義者についてのみ言ひ得べく、我利我欲の者に適用すべからざるは言を俟たず。此事誤解あるべからず。

要之、我宣光社は、常に不二の光明によりて、其經濟行爲を淨化し、以て奉仕の實を擧げん事を期するにあり。

（ハ）奉仕者

宣光社の事業に、精神的並に肉體的勞務を提供する者を總括して、茲に奉仕者と呼ぶ。世に所謂重役支配人等云ふ經營主腦者並に其指揮の下に從業する事務員工務員及職工等皆此中に包含せらる。宣光社は、先に述べたる如く、事業に即して神佛と世間一切に奉仕し、內其事業に參加せる者を善導し、外取引先其他其事業に因緣ある者を感化し、以て眞道を成するにあり。されば、修道訓育は、宣光社の一大特色ならざるべからず。宣光社は、例へば（審く勿れ）又は（自分が惡い）と云ふが如き戒法を嚴守せざるべからず。社員凡て第一義者のみならば何等制裁を設けずして、各人の自律に委ぬるも可なりと雖、未熟の者ある時、之を自由に放任せば、社規を亂り事業の進運を妨ぐるのみならず、未熟者自身の爲めにも不可なり。されば、神佛の名によりて、之を訓練し、又同人互に、神佛の名によりて激勵し、以て益々精進せざるべからず。宣光者にて多數の人手を要し、同人のみにて間に逢はざる時は、同人外の人を賴むの外なし。此等の人に對しては、強ひて、干渉せず、審判せず、只同人自ら行動を愼み、眞道を行じ、以て感化善導するの方針を採るべし。

我社同人は常に、（一）神佛に歸依する事（二）戒法を亂さぬ事（三）方便慧明なる事（四）總じて神癒を信じて剛健なるを要す。即金剛の信心と戒行に依つて、心身の勇健を計り、明敏緻密なる不斷の注意に依つて世務を修め、餘暇あらば文を學び、常に丹田を練り、以て俗諦成就の才と定力とを練磨すべきなり。今左に經營者及び其他の奉仕者に大別して、猶少しく述ぶる所あらん。

（一）經營者

宣光社は不二の光明を經營の指針とす。されば、其經營の任に當る者は、天華香洞の同人たるを要す。今經營者を、假りに名けて當番と呼ぶ。其選に當るものは、世の所謂經營者と異り、苟くも、權勢を誇り、又は專橫の行爲あるべからず。己れ之を欲せざるも、曲げて人情に從つて、高座に上るの態度を嚴守すべきものとす。かく

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

て、當番は、一點の私心なく、常に光明の前に平伏して己れを持する謙讓、人に對するに敬愛を以てし、凡ての社員を教導し、他の凡ての人にも良感化を與ふべきなり。宣光社が同人のみによりて運營せらるゝと否とを問はず當番たる者は、光明のお導きにより、常に供養（當番が神佛の名によりて隨喜させて貰ふ物資を云ふ）奉仕の時間其他世の所謂勞働條件を改善し、凡ての人をして等しく文化生活を享樂するを得せしむるやう心懸くべし。生產並に經營技術等の點に付いては、各員を督勵して科學的研究を精勵せしめ、其公論に聞いて、應用施設すべきは言ふ迄もなし。

（二）其他の奉仕者（精神的並に肉體的勞務者）

宣光社の事業管理組織は、大体に於て、一般事業界の夫れに準ずべく、事業の性質、規模の大小によりて、夫夫適切なる仕組を採用すべきは多言を要せず。社員は各各其才能に應じて、其職務を分擔するを以て、勢ひ其職責に大小廣狹の差異あるを免れず、されど、其地位資格に於ては、本來上下の差ある事なく、何人も皆平等なり。斯くて、全員の眞の自由と自發的の活動とを所期し得べし。又社員たる者は、世間普通に見るが如く、單に財物に執着することなく、常に四恩に感泣し、報恩の爲めに忠實に奉仕し、其足らざるなきやを憂ふべし。其業務に從事するや、僧侶が讀經し、居士が公案を念するが如く專心一意作務三昧たるべし。世間多くは勞働（殊に肉体的勞働）を以て苦痛となす。然り、分配の不公平を許容し、雇主の壓制を恣ならしむる、現代資本制の下に、而も衣食の窮乏に對する恐怖に驅られて、終日營々として無味單調なる勞務に服する、所謂賃銀奴隷に取りては、勞働は苦痛たるに相違なし。然れども、一度如上の見地に徹底せば、勞働は創造にして、藝術的力作となり、又無言の說法となり、人生其者となる。かくて勞働に伴ふ苦痛は消失して、勞働即遊戯の妙境に達するは、體驗者の等しく承認する所なるべし。

我宣光社同人の作務は、報恩の爲めにして、衣食を目的とするものにあらず。當番が隨喜させて貰ふ供養は、世に所謂給料賃銀に類すと雖、不二の光明の淨化によりて、自ら其質を異にす。供養多く休養長しと雖、之を受くるものは、日々の生命を等閑にせず、私に費さゞらんと行持すべきなり、同人外の人に對しては、速かに、如上の境地に至らしむる事を祈願すべきなり。斯くて我宣光社に於ては、現代經濟界の怪物たる資本主義と賃銀制度も其精神を滅却され、單なる殘骸と化し、之に伴ふ弊風は自ら芟除せらるべし。

宣光社が手不足にて、同人外の人を依賴するとも、（此種の人に對しては報酬を支拂ふべきも）世の資本家の如く他より强要されずとも、自ら進んで奉仕者の爲めに計るを以て、玆には世に所謂勞働時間賃銀等に關する抗爭なきは勿論、產業自治の叫びも、今更要なき業なるべし

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

六、事業剰餘金の處分

一般企業界に於ては、一定期間の總收入中より、材料工費等一切の經費を控除したる殘額即純益の大部分は、資本家に取得せしむるを常とす。我宣光社に於ては、假りに之を管財人に歸屬せしむ。之れ名目上の事にして、實は光明に歸するなり。つら／＼現時の經濟界を見るに勞働者並に其同情者は、勞働所産の大部分が、資本家に掠奪されつゝあるの事實を力說して止まず、資本家も亦資本の効能を高調して、當然勞働者に歸屬すべき分をも取得して、猶飽き足らざるの概あり。飜つて思ふに、我等が執着する身も物も、認識界一現象に過ぎざるにあらずや。目醒むれば、我身なく、我物なし、皆之實相の中にあり、不二光明のものたり。之を他のもの我物と相爭ふは、苦々しき極みならずや。斯くて、我宣光社の管財人は、預財として之を保管處理すべく、元より濫費あるべからず。敬虔の念を以てする財の處分は、自ら道に適ふ。世人の嫉視非難を受くる餘地なく、分配に關する抗爭葛藤、自ら根絶すべし。凡て財淨よりなり純正無垢の宣光社に於ては、此種の剰餘金は、左の用途に充てなば光輝を放つべし、即ち天華香洞の祈願たる、

通願皆倶大圓覺、別願根本眞平和招來の爲め、並に化城又は光明に還らんとの祈りを持てる人々の生計の不足を供養し、或は之を配給して、光明に還らん事を祈る場合に。

因に記す、世の所謂慈善救濟事業の多くが、其本義を去ること遠き結果を示す所以は、只徒らに物を與へて、善提心を托鉢せざる爲ならずや。余は信ず、眞の慈善救濟は、茲より出發すべきものなるを。

七、宣光社と其實體

天華香洞一燈園宣光社は、三位にして一體、通じては無相不二なり。されば宣光社は、楯の半面に過ぎず、眞に之を理解せんと欲せば、他の半面を解せざるべからず之れ余が茲に、天華香洞と一燈園について、一瞥を試みんとする所以なり。

天華香洞は本所なり。茲に歸りて神佛の聲を聞き、水月道場に坐して、六萬行願を修し、又召されて一燈園宣光社に托鉢し、委ねられたる整理其他の作務に從事す。即懺悔報恩の爲めに、神佛と一切に奉仕の生活を營む。こは無相の福田によりて神佛に養はれ、自ら求むるなきの生涯なり。無一物に住すれども、何等の不足不安あるなく、其作務は法悅と共に遊戲三昧と化す。

一燈園は天華香洞の門なり。道に志して自ら立つ能はざるもの乃至老幼病者の爲めに設けられたる一つの化城にして、天華香洞同人の福田によりて養はれ、其在園は一燈園の清規に從ふことによりて許さる。

既に述べたるが如く、我宣光社は、不二の光明を以て現代資本主義を淨化するにあり。而して其淨化は、天華

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

香洞の行乞と一燈園の佛子の托鉢に待つ所多し。されば宣光社事業の成否は、懸つて天華香洞と一燈園の緊張の度如何にありと云ふも過言にあらず。宣光社は天華香洞の如く、悪を折伏するの絶對的權威を有せず。只相對善の爲めに、暫らく悪を增長せしめざるの働きをなすに過ぎず。卽ち其働き消極的にして、天華香洞の如く積極的なる能はず。

八、結論

我宣光社は一つの小見本なり、雛形なり。されど、所有欲より解放され、奉仕の生活に、創造の歩みを運ぶことが、人生無上の幸福なりとの深刻なる實證より生れ出でたるものなり。空理空論にあらず、余が拙なく書きしものは、稍組織を有する所の宣光社なり。されど此心にて財物を扱ふ時、宣光社は隨所に生るべきなり。此一事實が果して、普ねく世人の認容する所となるや否やは暫らく問はず。少くとも、囚はれたる現代社會の改造に、一道の光明を投ずるものたるや必せり。宣光社に關する研究と、之に對する詳細なる批判は他日更めて具体的の敎へを乞はんとす。

（八、一一、二五稿）

勞働運動と社會的奉仕

たけし

一

勞働問題に關する論議は、雨後の筍の如く我論壇に簇出して居る。夫れに專門硏究家でない私迄が飛出して、今頃彼此云ふ必要があるかどうか。私には少からず疑問である。

歐米勞働運動の歷史や現狀の講釋は、私の出る幕でない。先進國の歷史に鑑み、我國民性や勞働界の現狀を洞察して、適切な方針を立てる事も私の手に負へぬ。之れならば理想的だと云ふ解決案があれば、祖述もしようが淺學寡聞な私には、夫れも見付からぬ。かう考へて來ると、何にも言へぬ。やはり今の私には奉仕の信行をいそしんで、此問題の圓滿な進展を祈る事が一當落ち付く、併し編輯兄のお勸めもあるので、止むなく玆に筆を採る元より世間の御役に立たぬ事は承知して居る、只諸賢の御叱正を得ば本望である。

二

勞働運動は、勞働者階級の地位境遇を改善し、彼等に文化的生活を享受させんとする解放運動である事は云ふ迄もない。此目的を達成するには、社會政策と社會主義

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

其何れを採るべきか。私有財產制と自由競爭の上に築かれた現代資本主義制度の經濟組織は幾多の缺陷を暴露した。富の分配と所得の形成が不公平なるは事實である。現制度の基礎を破壞して、改造を試みようとする社會主義と其類似のものにも大に傾聽すべき點はある。併し之に代る健全な新社會組織の建設案を見ない內は、俄に賛成しかねる。微温的ではあるが、我國當面の策としては、矢張り社會政策によるより外ないと、私も考へる。

國家は治安警察法第十七條の撤廢は無論の事、工場法の完備其他の社會的立法の手段によつて、眞劍に、どしどし勞働者の地位の改善を計るがよい。之に伴つて勞働者の自助的運動が更に望ましい。先づ英國式の職工組合（トレードユニオン）を盛にして、其健全なる發達を企圖したい。かう考へて來ると、我勞働問題解決上、當分の內最も重大な働きをするのは、社會立法（國家的方針）と職工組合運動（自助的方針）の二つであらう。而して行く末はどうなるか國家社會主義となるか、國家的組合社會主義（ナショナルギルドソーシアリズム）となるか、夫れとも他の道を採るか、否どう導くべきか、之れ等しく識者の頭を惱ます所である。愚かな私には豫想が出來ぬ、恐らく時と思想の流れが、解決の彼岸に押し進めるであらう。

三

勞働運動の基調は、神佛と世間一切に對する奉仕の信行であらねばならぬと私は思ふ。我勞働者の中には、未だ「我」の自覺の足らぬ人も少くない。凡ての我勞働者に「我」の自覺を呼び起し、進んで、社會連帶責任の觀念をはつきりさせ、「社會我」の自覺を持たせたい。更に小さな我欲を捨てゝ、神佛と世間一切に奉仕するの考迄進めたい。併し私は、資本家の多くが我欲で、勞働者の正當の權利さへ認めない今が今、勞働者に丈け之を强ひんとするものではない。我勞働者の多くは、所謂工業豫備軍が澤山背後に控へて居るので常に失職の危險に脅かされて居る。そして職を放るれば、直ちに路頭に迷はねばならぬ憫れな無產者である。弱き彼等の地位境遇を自ら改善するには、團結の力に俟つより外に道がない。正々堂々と資本家と交涉して容れられなければ、ストライキも止むを得まい。夫れをするの自由と資力がなくば、サボタージュ、ボーイコット、其他の方法も必らずしも惡いとは言へまい。併し凡ての運動は聰明なる理智と相互扶助の犧牲的精神から出發したものでありたい。無暴の擧は我と我階級を損ふのみである。獻身犧牲の心なき自利的行動は、自己階級の發展を阻害する。解放の大望を抱く我勞働者は、凡て其階級の爲めに殉ずるの覺悟がなくてはならぬ。併し自己階級を愛するの餘り社會の公正を亂すやうな事があつてはならぬ、否さうなれば社會の同情を失し、解放運動の進展を阻止するのは明かである。我勞働者は、輕薄なる煽動者の言に迷はされず常に自重して、內組合資金の充實を計り、共に其心身を訓練し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

外資本家に對しては、徐々に其地位の改善を促し、他日の大成を期したいものである。犧牲的精神は勞働運動の命であり、神佛と世間一切に對する奉仕が、勞働者向上の目標でありたい。奉公犧牲は、殊に勞働指導者に望ましい。少しでも名利の念があつたら、眞の指導者たるの資格はない。我勞働者の多くはまだ思慮分別に乏しく、團體的訓練にも熟れて居らぬ。之を導くには細心の注意と決死の努力が必要である。サンヂカリズムやアイ、ダブリユ、ダブリユの宣傳も必らずしも悪いとは言はぬが充分の理解力のない民衆に對するプロパガンダは、周到なる用意が必要である。我國將來の勞働運動を險悪ならしむるか否かは、今の指導者たる有識無產階級に待つ所が多い。今の勞働者を統轄して、資本家の鐵壁に迫らうとする勞働指導者には、非常な忍耐と努力がいる。爭の爲めの爭でなく、正義の旗を押し立てゝ、勞働者解放の大任に當り得るものは、曲學阿世や自利名聞の徒では出來ない。犧牲奉公の精神に燃え、道に殉するの國士であらねばならぬと、私は思ふ。通じて自己犧牲の念から出發した奉仕の信行が、勞働運動の生命であらねばならぬと私は考へる。我天華香洞の同人は、常に我と我同胞に此信行を祈つて居る。かくて我々は、勿体なくも日々の行持によつて此勞働運動の大願にも參じて居るのである。

四

我工業界には、未だ主從的な然らざれば家族的な溫情が殘つて居る。此美風を助長して、我勞働問題の解決に資しようと云ふ意見が、我資本家や官僚仲間に大分ある此所謂溫情主義で、今の勞働問題を解決しようとするのは疑もなく時代錯誤である。併し之が經濟と道德の調和を期する思想から出發した、眞の慈惠主義なら、必らずしも排斥すべきではない。單に營利の打算からか乃至は職工組合對抗策としての施設行動なら、感心しないが、雇主が眞に自己の義務として又敬愛なる同朋への報謝の爲めの所作なら、元より結構である。經濟界も等しく人の集りである。例へ自由競爭の上に立つとは云へ、相互扶助が立入る餘地のない筈はない。經濟と道德との調和——私は假りに名けて人道主義と呼ぶ——が我資本家の採るべき只一の道であり、而して之が眞の勞働問題解決法の一つであらねばならぬと私は考へる。犧牲と献身とは、神佛に對してはあり得る。併し一般民衆は之を要求するの權利を持たぬ。勞働者から眞面目な奉仕を望むなら先づ資本家自らも眞劍に奉仕せねばならぬ。夫れは何れも神佛と世間一切に對する奉仕の念から出た態度であるべきは言ふ迄もない。世界列國と競爭猶激しい現狀では、生產問題も元より重大である。併し同朋の生命を犧牲にするは忍びない、又さうする事は、結局國家社會の損失である。少しでも、自ら紛爭の種子を蒔いたものは刈り取る義務があるが、夫れは暫らく問はぬとしても、資本家はとても駄目だから、法の力、團体の力、經濟組織

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

の改造で、强要しろと云ふのが、今の勞働運動の趨勢である。呪はれた資本家は、自ら進んで人道主義を實行し改造運動の先手を打つ事が賢明な仕方であり、又社會の爲めに利益だと私は信ずる。私も多くの資本家の邪觀を說破するの至難なるを知つて居る。併し私は其胸に秘められたお光りを禮拜して、奉仕の菩提心を祈り出したい。之が私共同人の祈りである。

五

以上私はあるが儘の勞働運動の大勢を概觀した。さうして其圓滿なる進展を企圖するには、神佛と世間一切に對する奉仕の信行が、此運動の基調であらねばならぬ事を述べた。以下少しく理想を云はして頂きたい。勞働問題は結局社會改造に歸結する。而して、社會改造には、經濟組織と時代精神との改造が必要だと私は考へる。思ふに、現代社會の紛爭は、凡てが我々の利己的な、物質的な、享樂的な、靈に目醒めない人生觀の缺陷から流れ出る。此利己的物質過重思想が一般に矯正されなければ今の資本主義を倒しても、又第二の主義が出現する。そして有限なる物資の分配と苦役轉嫁に闘する問題は、永遠に殘るのである。現に占むる生產上の地位、並に享樂生活を固守せんとする資本家に眞の人生の幸福なきは勿論、階級闘爭の火花を散らして、今の資本家の有する地位境遇を獲得せんとする勞働者にも、よし其望みが達せられても、眞の幸福は來らないであらう。生命を存續するが爲めの勞役に日も亦足らず、文化的欲望の充足發展を顧みるの暇ない勞働者階級には、先づ分配の公平が必要であるが、之と同時に、所有欲から解放されて其生活力を自由に發展せしむる事に依つて始めて、眞の人生は幸福となる事を自覺させねばならぬ。否獨り勞働者許りでない。資本家は無論の事、一般人類が之を自覺せなければ、現代文明の餘弊はとても芟除する事は六ケしい。而して勞働問題も亦、眞の解決を見る事は出來ないと私は考へる。かゝる自覺は如何したら得らるゝか。夫は各人が靈に目醒めなければ、とても得らるゝものでないと私は考へる。信仰の世界では、我執闘爭の我はない。物質以外に生存の意義ある事も實感される。茲では勞資兩階級も相協調して、共に事業に奉仕し、其生を樂しむ事が出來る。併し西洋思想は、自己を絕對に正義とし飽迄戰ふ權利思想に歸結する。我東洋思想は「自ら生きんとする」の我執を解脫して、神佛に歸命するのである。茲で始めて勞働問題は圓滿且理想的に、解決が出來ると私は信ずる。

六

我宣光社は、之を立證せんが爲めに生れ出たものである。併しいくら理想的な解決法を實證して目の前に突き出しても無明の暗に閉された多くの人の目には見えぬ。世人は直に云ふ、理想としては間然しないがとても實行

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

が出來ぬと。然り、不二の光明の輝きは偉大なれども、縁なき衆生は度し難しとの語の如く、目を掩ひ、之に背くもの多くは實行難となるも亦詮方ない次第である。そこで、之が勞働問題解決の重要なる方法だと、社會的には言へない。併し宣光社は、少くとも勞働問題の根本的解決の燈明臺であり、不二の信行は勞働運動の基石であると私は考へる。よし世の人の目には見えなくとも、無くてならぬものである。今宣光社は隨所に起らんとして居るが、例へ他に現はれなくとも、純なる一つの宣光社の存在は勞働問題乃至社會問題の解決上、重大なる意義があるが、例へ之が間もなく消え失せようとも、此精神は社會改造の「曉を俟ちつゝある一つの希望として、或人々の心の中に殘るべきものであらう」。

（八、一、二四）

勞働と平和

赤堀建

世界の不安

M兄　勞働を一つの社會問題として是を研究するには譬へ其人自らが眞の勞働者でなくとももしも勞働問題に對して異常の熱心と眞摯とを以てするなら必ずしも不適切な事はありますまいが、既に理論を去り研究から離れて實行を根底とする勞働運動に對して意見を發表しようとするには論者自らが眞の勞働者であるか、或は又全然勞働者と同化した理解力と同情とを持つたものでなければなりますまい、其點から云ふならば私は何れに對しても論評する資格の極めて尠い事を感じます。況んや時代の思潮であると云ふよりも、むしろ一種の流行的な話題に對して華々しい論議をしようとするやうな餘裕がありませうぞ。あなたから御手紙を戴きながら暫く躊躇して居たやうな譯なのです。

けれど不二の光明に導かれて歩まうとする以上、私自身の所成が徹底し得なくとも私共が社會の事象に對する態度は何時も不惑でなければなりません。謙遜互讓を精神とする自他共存の相互扶助、言ひ換へれば自分を捨て然も自分も他人も何等の撞着も衝突もなく共に感謝しながら生を樂しむで行け得る道、此道を外にして複雜極り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

なく利害相交錯せる百般の社會問題を氷解するの道は絕對にない事を世の人と共に信じたい。不二の光明！願はくは不明微弱な私に此光と力と此信念とを與へ給へ。

M兄　翻つて足尾其他の鑛山や諸會社の間に頻々として突發する勞働運動の狀況を傳聞する度每に私共は資本家も勞働者も未だ共に自覺の眞底に立つて居ない事を浩嘆せずには居られません。勞働者は殆んど何の用意なく半は煽動されて事を起す。未だ死を期して對するだけの眞摯さと熱烈さと其れだけの信念に依つて働いて居ない以上勞働者の運動は多く曖昧な行動に終始する。資本家は又自分達の死活に關する程の決死的な問題でないに依つて出來得るだけ態度を曖昧にし、あらゆる奸策を繞らして一時を彌縫する。其間に何の理解もなく融和もないのは云ふ迄もありません。お互に一時を誤魔化し合つただけで勞働者は依然として滿たされない不平を隱しながら資本家を敵視して過ごし、資本家は何時になつても警戒の眼を怠らないで對峙しようとする。此現狀を以て進んで行くならば何時になつたとてか、勞働爭議の絕えようとは信ぜられません。お互に滿たされよう筈のない慾望を根柢として生活して行く以上其間に何等かの矛盾、何等かの撞着、何等かの衝突の起らない筈はないのですから、溫情主義は其思想に於ては傳統的な人道主義に起因してゐるやうではありますが其立脚する處は極めて曖昧摸糊です。もしも資本家が之を政略に利用するならば恰かも眞綿を以て勞働者の咽喉を締め括るに等しく首枷を與へるに等しい。溫情主義は一種の傾向であつて必ずしも一樣の基準に依つて居るのでない故に勞働者は溫情主義を標的とする總ての資本家に直ちに信賴する譯には行かない。

從つて勞働者は安心して一身を資本家に任せる事も出來ない。蓋し眞の信仰の力は身を託する事であり眞の安心は信仰に依つてのみ得らるゝものであるに依つて兩者の間に何等信仰の無い處に安心立命の眞平和の求められよう筈はありません。もしも人と人とが何の不審もなく神を信ずるやうに純一に信じ合つた時があつたとしたなら其時こそ溫情主義の最徹底された時であつたかも知れません。けれども其組織に於ては科學を基調とし其思想に於ては欲求を根柢とする複雜多岐なる現代に於ては既に單純なる溫情主義は此儘にしては純化され得ないで其權威は墜落して居ります。

組合主義は組合員多數の意志を尊重し其決定權を資本家に慾求する處に其主張があるやうに思はれますが、此主義は果して其れだけ尊いものでせうか。最大多數の最大幸福と云ふ事は誰れしも求めて已まないものではありますが、組合員多數の意志が必ずしも何時も正しいものでせうか。そして其慾求して得られたるものが常に多數の人を幸福に導くでせうか。人々は權利を得れば得るだけ其反面に於て義務を負はせられつゝある事を思はねば

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

なりません。自由を求むれば求むるだけ責任を與へられ束縛を與へられつゝある事を思はねばなりません。一物を求め得れば其れだけの重荷は負はせられつゝある。況してや强ひて求め得たるものには常に暗い影がさし其心は絕えず不安に脅かされて居ります。世界の現狀がさうではありませんか。平和果して眞の平和か？　世界の大戰は終焉したと云つても世を擧げて不安に戰慄いて居ります。國を競つて武裝に力めて居ります。組合主義の制度は單に此變則な武裝平和の一時代に處すべき假の制度であつて斷じて勞働者の眞幸福と永遠の眞平和とを到來さすべきものではありません。私共の信仰し導かれて居る光明の道は總ての人達に先づ一度死ぬ事を敎へて居ります。資本家も勞働者も先づ自分を殺さねば駄目です。一切の我慾と迷執を棄てねば駄目です。一切を棄てゝ死に光明に照らされて復活した時自分は既に一個の自分ではありません。我は自己一個のものでなく他人のものであり人類のものであると同時に財產は自分一個のものでなく、光明の社會に歸すべきものであつて、只德望ある人のみ社會の信託を受けて假りに預けられて居るに過ぎません。卽ち自他共存であつて資本家もなければ勞働者もない、人々は其才能に應じて悉く社會の仕事を分擔して居る許りです。貴きもなく卑しきもなく何れも平等に不二の光明に照らされて社會に奉仕する事を樂しみつゝ働く。魔の如き機械の軋る音を恰も音樂の如くに響かしめよ。武裝平和と云ふ言葉を、資本家と云ふ言葉を、勞働者と云ふ言葉を人類の社會から事實と共に失はしめよ。他人のために働く事は軈て自分のために働く事であり社會に奉仕する事は又以て自分に奉仕する事になります。かやうな社會に於ては無爲にして遊んで居るやうな人はあらう筈はありません。若しも一人の無駄に遊んで居る人があるならば必ずや社會の何處かに其人に代つて働いて居る人がなければならないのですから、自分のために働いて貰つたならば自分も亦他人のために働かねばならない。人は誰れでも自分一孤で社會に生存出來ない事を痛感し社會の扶助によつて共存して居る事を謝して人類社會に奉仕しなければならない。其れは賃銀によつて强ひられた勞働でなく報恩のための感涙に滿ちた勞働です其れは權利のために强求さるべき勞働でなくして人類が生存するために課せられた本來自然の義務に過ぎませんお互に何等の不平不滿の發すべき餘地はなく不公平の生ずべき原因もありません。此光明の道に從つて事を處理すれば何事も些の難澁だになく解決さるる、是れ果して實現出來難き理想鄕（ユートピア）か？

不德な私としては餘りに不遜な言葉を求めた事を懺悔せずには居られません。只願はくばあなた方の驥尾に附して光明の道のために熱涙をこめて斯る社會の出現を祈りたく思つて書きました此言葉を許して戴きたい。人類のために、社會のために、又私のために。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

隱遁の根據について

——若き日の手記より——

倉田百三

人と人との接觸について、深くして重き關心を持つ人の心に、一度は必ず訪づるゝものは隱遁の願ひであらう。そしてその願ひが、却つて愛を求むるヒューメンな心に生ずる時にそこに人生の不調和と悲しみのあとが辿られる。單に自分一個の安けさを求むる爲に、人間が隱遁の願ひを起すことがあらうとは思はれない。若し初めより自己の外に興味を感ずることの出來ない人——卽ち他人の愛を欲しない人であるならば、恐らく隱遁のスヰートなロマンチックな氣持は解るまい。隱遁は他人との接觸に道德的の興味を感ずる人、人懷しき情緒の持ち主、かつては熱心に愛を求めたりし、優しき人の心に起るたましひのリフユージである。隱遁は自分一個の興味のみによりては成立しない。他人を豫想して起る情緒である。人が隱遁の願ひを起すまでには、人は一度愛の問題に苦しまねばならない。故に人生の事象の中、自己の興味に適せざるものを避け、自己は快き人間を選み、快適なる場所に住まんとする心は隱遁ではない。エゴイスチツシユな近代人が社會の禍惡（イーヴル）に眼を塞ぎ、其煩雜を厭ひ、美しき女を伴ひて湖畔の水棲に住まんとするのは隱遁ではない。

隱遁は利己的な動機からは生れて來ずして、却つて彼のトマス、ア、ケンピスの如き純潔にして、愛の深い人の心に生れるのである。私について語れば、私は曾て人間の愛を求めて苦しんだ。そして愚にも戀愛に於て、その愛の飢渴の飽和出來得るものと信じた。その戀のためには何者をも犧牲にし、他のものは何一つなくとも充足することが出來ると信じた程、愛を求めた。そしてその戀人から慘めに裏切られた時は、私はその苦痛の只中に於て、又私の信賴する友に對する期待からも同時に裏切られた。そして混亂と悲恨の間に私はつく〴〵人間の愛の賴み難きことを感じた。その時私の心の底に湧き起つたものは、淋しき隱遁の願ひであつた。

「最早決して他人にデペンドしまい。」私は考へた。「私の生活は私自らの上に立てられなければならない。他人にデペンドする生活程、危い不安なものはない、最早他人に何ものをも求めようとは思ふまい。」私は須磨の海岸や鞆津の淋しき宿屋で、隱遁の心持を沁々味ふた。そして其の頃から私の心に芽を出し初めたのは、一つの厭人的な感情であつた。それは人間に對する輕蔑と、嫌惡と、怨嗟とより生じたのである。街を散歩して美しき娘を見れば、やはり若き心は動く。けれどすぐに「この娘はこれで淺薄で、いざとなつた時には愛人をも無慈悲に捨てるのだらう。」と思ふ。品のよい紳士を見れば、あの美しいマンナーの影には冷淡な貪慾なそれでゐて吝嗇な心が

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

潜んでゐるのだと思ふ。淑かな婦人を見れば「あれでゐて娼婦のやうな心が隠れてゐるのだ。」と思ふ。素朴な農夫を見れば、單純のやうでその實、いやにひつこいひねくれた心の持主が思はれる。誰を見ても賤しく冷たく淺はかに思はれる。そして彼等に何を求めるものかと云ふ氣になる。"Dont trust to man but believe in God." キリストの言葉が沁々思はれる。求めて信じて、そして傷つけられた自分が悔いられる。その時私の心を惹いたものはあのトマス、ア、ケンピスの隠遁的情緒であつた。As oft as I have been among men I returned home less a man than I was before. といふ彼の言葉は私の胸に沁みた。親の愛も女の愛も友の愛も皆噓だ。信ずるに足らない。他人の愛を求めてはならない。私は故郷の森の中、沼に近き一軒家に學僕の少年と二人きりで淋しく舊約聖書や、アウグスチヌス等を讀んで街へは出なかつた。夕方など人懐しくなつて街の燈火の方へ誘はれる時には、私は自分を叱つた。「何を求めに行くのだ。街へ行けば何があるのだ。女の愛か、友の愛か、お前は最早それを求めて失敗したのではないか。」そして私は一二町ばかり街の方へ歩いてそのまゝ私の淋しい住居へ歸り歸りした。けれどその間私の心は全く他人を厭離してゐたのではなくて、人懐しき願ひは胸の中から去つたことはなかつた。私には恨めしき人間の表象が必要であつた。恰も叱られた子供が首を縊つても、あとで悔いる親を見てゐたいと思ふやうに、私は私の怨を聞いて呉れる人間が必要であつた。私は近くにゐる人々からは避けかくれたけれども、遠くにゐる極めて少しの友には、淋しき訴へを洩らさずにはゐられなかつた。「最早求めようとは思ひません。」と私は幾度書いたらう。女の友達には「最早決して女を信じようとは思ひません」と書かずには手紙を結ばなかつた。けれどかく書き送る心の底には、捨てることの出來ない人懐しさがあつた。他人と別れてしまふことの出來ない心であつた。私はそれを弱い心として叱つてゐた。その時私にとつては信ぜず求めざることは、私の苦しき經驗より得たる尊き智慧であつた。獨立自全な生活を己れ自らの魂の上に建てることのみを私は明け暮れ考へてゐた。けれどこの頃から私は聖書を讀み初めた。(私は聖書を輕蔑してゐた。)傷ついた、碎けた心には單純な愛の敎へは受け取り易く心に入り深く感動させられた。私は聖書を讀み耽つた。「私は赦して愛さねばならない。」私は考へた。「求めずに與へねばならない。私は愛を求めて傷つけられた。それは悲しきことではある。然し、それだけでは褒めるに値しない。私は赦して愛さうそして自身は求めず、信じまい。他人は愛しては呉れず信ずべからざるものと思ひ定めて訴へずに默つて只愛しよう。與へよう。これこそ强者の態度である。」と。この與ふるの愛の思想は次第に私の心の中に强くなつた。そして私は隠遁をよしと見ることが出來なくなつた。自分

は淋しく悲しい。それは分つてゐる。人間は求めても與へては呉れない。それも分つてゐる。けれどそれ等を熟知した上で、與へよう愛さうとするのは強い事である。求むる心で退隱所(リツユージ)から出るのは弱いかも知れない。けれど與へる心で退隱所を出るのはもつと強いことである。愛が深くなれば隱遁してはゐられないであらう。私は次第に隱遁は弱きものと思ふやうになつた。愛の思想が深くなる毎に隱遁は Highway ではなく感ぜられるやうになる。聖フランシスは傳道するか隱遁するかの岐れ路に立つた時、神に祈つて深く考へた。そして遂に愛の爲に傳道を選んだ。彼にとつては樂しきものは隱遁であつた。出來得べくば隱遁をしたかつたのである。故に彼は隱遁の願ひを惡魔の誘惑と感じた。私にとつて強きこと偉大なることであつた隱遁は、フランシスに取つては一つの罪、エゴイズムであつた。そこに私とフランシスとの愛の深みの大いなる差が見える。そしてそのことを考へる時に私は私のエゴイズムをまざ／＼と見た。（つゞく）

斷食

張谷倜一郎

絕食の祈りに入りて今日ははや五日へにけり七月六日
ふるさとに歸るが如くひたすらにこの絕食に入れる吾かも
ひとすぢにすぐに貧しき吾が心飢えの底より生れいでしか
飢えはてしからだを運びさわさわと水をかぶれり泉の邊
苔むせる庭石の邊に井泉の滾々として湧きやまぬかも
小庭邊に咲き殘りたる一輪の躑躅の花の今日も散らざり
家をめぐり廣がりつゞく花畑に折々いでて草をひきけり
緣ちかく花はだらなる菖蒲田に行々子啼き夕づきにけり
夜となれば井泉の音谷川の響きにまがひせせらぎにけり

毒酒

中原綾子

あゝ出船つゝがなかれと祈るとき昔の吾を戀ふや厭ふや
賜はればかしこしと吾盃をほしぬ毒酒かさもあらばあれ
おそかりしこの燒跡を見よとわが理智の持て來し水を嘲ける
何處へか流れて去りぬ憂き心かの白雲か黑潮に乘り
紅の雲金色の朝日かげわが魂の夜明けはいつぞ
今日ひろき海に至りぬ源は千里の遠(をち)にいでしこの川
人の子はげにつゝましや何事の不平不滿ぞ荒狂ふ風
たゞ一つ終りの床に憎みてもあかしがたしと思はるゝ事
黑奴(くろんぼ)が椰子の木かげに笛を吹く夜なり血色の月まろく出づ
眉ひとつ動かさで聞くやごとなき龍卷あがる胸を火の海
基督の夢釋迦の夢それに似ぬ凡夫の夢の斯くはめでたき

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

天華香洞の回顧

島中雄三

恰度今から十二年ほど前、たしか明治四十一年の晩春の頃であつたと思ふ。私は、かねて其の人と爲りを聞いてひそかに高風を慕つてゐた西田天香師が、京都山科在に居らるゝことを聞き知つて、京都に滯在の一日其の百姓家を訪ふて見た。

探しあてたのはたゞ見る一軒のあばら屋である。表札には天華香洞とある。

『西田さんは…』と云つておとなふと、折柄竈の前にしやがんで、頬冠りをして火吹竹を吹いてゐた一人の男が『西田さんは今こちらに居られません』と言ふ。私はやゝガツカリして、はアさうですかと言つたまゝボカンとしてゐると、男はその顔をじつと見ながら頬冠りをはづして、

『君は島中君ぢやありませんか?』と言ふ。見るとそれはまがひもない舊友小田頼造君であつた。

『君はこゝにゐるんですか?』と私は思はぬ奇遇に喜びの聲を放つた。實際こんな時、舊い友達に會ふといふほど嬉しいことはまたとない。

『まア上りたまへ』と小田君も非常に喜んで呉れて、半日私を引きとめていろ〳〵信仰上の話をした。

その頃の私のことを一寸言つておかなければならぬ。私の精神狀態は、全く據るべなぎさの捨小舟同樣であつた。私には「異性」を中心にしての一つの煩悶があつた。人生社會に對する根本的の疑問があつた。殊に社會制度社會組織に對する強い不滿がつきまとうてゐた。

それより前、日露戰爭の始まつて間もなく、私は万事を放擲して郷里の田舍に歸つた。私は戰爭を以て人類社會の最も呪ふべき惡魔であると信じて居た。しかも私はこれを防ぎ止める何等の手段をもたない。私はたゞ默して惡魔の跳梁を眺めるより外なかつた。それにしても、惡魔を讃美することは何うしても出來ない。惡魔讃美の聲を聞くことは堪へられない。私は、郷里に歸つて、たゞ讀書と散歩と薪割りとを日課とした。そして一切新聞といふものを見なかつた。土地の百姓と話をすると必ず戰爭のことを聽かれる。或は聽かされる。それが厭さに私は一切人と話することを避けた。旅順の陷落が何時であつたか、ずつと後まで知らずにゐたほど、當時の私の生活は非社會的であつたのである。

けれど日露戰爭もその中にやんだ。恰度伊藤證信氏(號枯山)が、眞宗大學から出て居た『無盡燈』といふ雜誌に『語か默か』と題して、一種のリバイバルを得た經驗を書かれ、次で巣鴨の大日堂に立て籠つて、例の『無我愛』を宣傳された頃であつた。私もトルストイズムの信者として共鳴するところが多かつたので、上京するや早

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

速伊藤氏を大日堂に尋ねた。そして何よりもその態度の眞劍なのに敬意を拂つた。

日曜毎には近角常觀氏の求道學舍に行つた。そして絕對他力に安住の地を得べく心を凝らした。

マルクス派の社會主義者として近來非常な盛名ある法學博士河上肇氏が、無我苑に投じたのもこの頃であつた。『讀賣』新聞紙上に連載された『社會主義評論』の筆者として當時博士の假名であつた千山萬水樓主人といふ名は、一部の人々から非常な注目を拂はれてゐただけに、氏の無我愛事件は可なり當時の思想界を騷がしたものである。そして本鄕龍岡町に氏が二三の同志と共に簡素な生活を營みつゝ、『讀賣』紙上に『大山鳴動』を書いたり、客を相手に伊藤氏直傳の『無我愛』を說いたりして居られた時分には、恰も牛丁とは隔らぬ處に下宿してゐた私は毎日のやうに其處へ行つて氏の信仰實驗談に耳を傾けたものだ。

しかし有体に言ふと、大學で經濟學を專門に學んだゞけの若い法學士に比べては、私たち（當時は私も若かつたが）の頭は、遙に思想的にひねくれて居た。宗教的の煩悶も實驗も、相當に味つてゐたゞけそれだけ、單純に伊藤氏や河上氏の言葉を受け入れることが出來なかつた。理智の上では、無我愛一派の人生觀、社會觀を一應承認することは出來ても、體驗となつて現はれるのは餘程の距離があつた。今でこそは、河上博士も日本有數の思想家であるが、當時の氏は極めて單純な頭腦の持主であつたやうに記憶する。

さうした不滿と、煩悶と、焦燥とのうちに日を過してゐた私にとつて、一番慰めを與へて下さつたのは近角常觀師であつた。初めて師に會うた時、私は自分の苦悶を大要打ち明けて、師の批判を求めた。その時の私の言葉と、後に河上氏が『讀賣』で書かれた懺悔告白の一文とには、不思議に共通した點が多かつたので、それを讀まれた近角師は、私を河上氏かと想像したと後に人に語られたが、兎に角それ以來私は、何故か師の前に出るとそゞろに慈父の懷に抱かれるやうな一種の暖い心持に醉はされるのであつた。師の言葉の中には、實は田舍の眞宗坊主が年寄つた善男善女を相手に說敎すると同じ樣な、青年の頭には非常に緣の遠い非科學的な言葉が往々あつた。生來理窟ッぽい頭を持つた私には、さうした言葉が素直に受け入れらるゝ筈もなかつた。しかし彼の圓滿な、ニコ〳〵した師の顏を見てゐると、たゞ譯もなく一種の詩の樣に私には響いた、そこに吾々惱みの子を救ふ大きな眞理が含まれてゐることを信ぜずには居られなかつた。

さうしてゐるうちに、私にも一種のリバイバルが起つた。私は絕對他力の救を得た。その時の信仰告白は、當時近角師の雜誌『求道』に長々と書いた。

しかし私の信仰狀態はいつまでも續かなかつた。私は再び迷ひの人となつた。煩悶の人となつた。そして九州

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

の果にまで放浪の生活をつゞけた。

京都山科在に西田天香師をたづねたのはその揚句であつた。

當時天華香洞には天香師、小田君の外に天香師の弟さん、息子さんなども居られたやうであつた。何れも百姓をしつゝ村人に道を說き、その勞作を手傳ふのが、この人たちの神から命ぜられた仕事であつた。その生活は一見俗の如くにして實は全く僧人の生活であつた。

私は性欲のことについて小田君の感想を叩いた。小田君はそれに答へずして、肉食の害と菜食の德を說いた。

『この頃は茶も斷然止めようと思つてゐる。あの若々しい茶の芽を摘み取るといふことは、どうも自然に背いたことのやうに思へてならない。』

小田君はこんなことを言つた。敬虔なる修道者！その小田君も今はなき人である。

翌日早速小田君から敎へられたまゝに、京都木屋町の旅館の一室に西田天香師を訪うた。宿の入口で、法被股引を着た一人の男が頻りに立ち働いて居るのを見かけたが、座敷に通されて少時すると、下手の方から唐紙をあけて、叮嚀にお辭儀したのは、その法被股引の男であつた。

『私が西田でございます。』

さう言はれて私は、やゝ面喰つた。あはてゝお辭儀を返して名を名乘ると、師は快く、而も宛ら舊知の如き打ち解けた態度を以て、この名もなき落魄の一靑年に接せられた。そして親切にさまざまの事を語られた。殊に嬉しかつたのは、話の中に少しも信仰を强ふるやうな態度のなかつたことである。

それからも二三度訪問したと覺えて居る。裏に出來たのだと云ふので大きな見事な筍を貰つて歸つたのは、何度目の訪問であつたやら、當時の記憶は今甚だ曖昧であるが、天香師に對する敬慕の念はこの時以來益々深くなりまさつた。

爾來私は、宗教に遠ざかり、道友に疎んじ、こゝ十年ばかり全く俗的な生活をおくつて來た。顧みて些か慚愧に堪へない。

昨年の春であつたかと思ふ。新渡戸博士を訪ねることがあつて、少時應接室に待つて居ると、對談中の博士がやがて客を送り出して、玄關口に來られた。私は輕く博士に一揖すると共に、起つて客間の方に歩を運んだ。その時送り出された人の何人であるかは、少しも注意を拂はなかつたが、後で博士の口からそれが西田天香師であつたことをきゝ、端なく十年前を想起して、餘所ながら懷しく思つたことである。今また雜誌『光』創刊號を見るに及び、感慨更に切なるものあるを禁じ得ない。私は俗物である。煩惱の子である。淸い嚴肅な宗敎生活は到底私達の堪ふる所ではない。しかし私の心の奥には、ユダも

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

居るが、基督も居る。內村鑑三氏も、清澤滿之師も居る。近角常觀師も、伊藤證信氏も居る。幸德秋水も居るが西田天香師の如き尊い人格も居る。私は何處までも凡夫である。罪の子である。しかし私の生涯は、結局私の定まつた運命のまゝに開展するより外はないのであらう。

（九年一月）

返照錄

□三浦修吾兄（府下落合村下落合五三四）京都一燈園から引續いて送つて頂いて居りました、中外日報の中の『一燈園物語』と『光』創刊號のはじめの方とを、今晚、はじめてまとめて讀ませて頂きました。

私の旅立と、一燈園からの御案內狀とが、行き違ひになつて、十一月二十日の會に列しさせて頂くことの出來なかつたのは、本當に殘念でした。其の日は丁度京都を通過した日で、あれ丈の時間はくり合せがつくのでありましたのに。

出家と其の弟子の、東京で上演せられたのを、私は觀ないですみました。あれを京都で、あゝした催しによつて上演せられるのを觀ましたら、一層味深く感じられたものがあつたらうにと思ひます。

『光』を私は當分よませて頂くだけにいたします。書くことは暫く御許しを願ひたうあります。

□鬼塚長次郎兄（甲府市百石町　青年奉仕社）私の家內は宇都宮から參つて居ます。十月卅一日に宇都宮へ參り二日に當地に歸りました。嗚呼！栃木町に一燈園のあることを知つて居りましたならば如何に都合してゞもお訪ね申し上げたかつたのでした。只今一燈園物語を中外紙上で拜讀して飛び上る程嬉しく感じました。オー先に行く提灯よ！私も一所に道連れお願ひ申します。求道十五年ア、血と死と淚の古戰場！明年は父の還曆祝に九州に歸ります。ア、京都！京都の西田先生！お訪ねせずに通過してなりますものか。ア、嬉しい「光」光光光！　購讀申込致します。ア、感謝、早く早く「光」光光！

□高橋正雄兄（備中淺口郡大谷）もくしていのるべきか、くちをひらいてさけぶべきか、ホントにどうしたらよいのでしよう。やむなくば、いのるこゝろをさけぶよりほかないのでせうか。ふかく／＼いのらせていたゞきたいとおもひます。こちらはちうしんをとかくはなれて、やすきにだしてなりません。したがつていのるこゝろもしんけんさがうせてこまります。これではならぬ。としもあらたになつたのだから、と、おもうてはをります。けうとしのいのりのぶん、おつかひくだされて、よろしくあります。しやのほうへもさうまをしておきました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

いつさいをうちぬいてしまつて、むかうからのひかりをそのまゝにうけたいものとはねんじながら、なにものかをゆるさねば、はなしもできないやうなことになつて、こゝろもちからわかりあふことの、むつかしさを、おもはせられます。ともに、こゝろもちからわかりあふことの、ありがたさもしみ〲とかんじさせてもらひます。けれどもまた、それにつかりすぎてもならぬ。しよせん、さびしきにぎやかさ、にぎやかなさびしさ、さびしさにひかれ、にぎやかさにおされ、いそがしめたまへ、ひかりをのぞみて。

●●●●

□松本爲次郎兄（山口縣山口町上羽坂）突然甚だ失禮ですが一書を差上ぐることをお許し下さい。私は久しき前より天香道師を景慕して居る者であります。此度雜誌「光」によりて同師及び同人方の尊き文を拜誦して轉た仰慕の念に堪へません。どうかして「不二の光明」に許されて一燈園の聖生活に入りたいものと思うて居ります。たゞ性來魯鈍にして道根薄く、名利の俗念未だ全く絶滅せざるのを遺憾と思うて居ります。これから愈々志を勵まして懺悔報恩の生活に入りたく存じます。實に恐れ入りますが一燈園生活の清規を御示し下されませんか。私をして新生に入らしむるの助けとならうかと存じます。御多忙中失禮ですがどうか御教示のほどを伏して願ひます。合掌敬白。

●●●●●

□宮崎八百吉兄（東京）拜啓本日御惠贈之「光」雜誌早速大部分通讀致しました。天香氏の教義は在來の女性的宗教に外ならざる樣觀じました。然し在來のそれを最もよき形式を以て表現されたるやう存じ候へば隨伴者は決して少なからざるべく思ひます。唯一事御注意申したきは是の宗教も在來の諸宗教と一般宇宙人權の審判の下に在りと云ふ事です。（下略）

●●●●

□吉田なを姉（秋田縣花輪町）此間どなた樣からか存じませんが赤い丸の中に光と申す字の書いた本を御送り下さいました。私は無學で何もよめないのですけれ共病氣でやすんで居りますのでたいくつなまゝに一寸ひらいてよまして戴きました處あまり六ケ敷くてさつぱり何が何やらわけがわかりません。所々かぢりさしのやうによむ事ができました。まちがつて居るか知れませんが先づ一口に申せば一燈園式に世界統一致すやうに御皆々樣祈なされて居らるゝやうに存じます。まことに〱有難い結構なる御事と存じます。恐れ多い事ながら誠に〱みなみな樣の御祈の通り世界統一致したる其上は皇室を守り世界各國の皇室も定めし一燈園にて御守り相成御事と存じ候。どうゆうふうに御守り相成御つもりや何卒私やうの無學の者にもわかりますやうに六ケ敷事おかきなさらず御教へ下され度御願ひ申上げます。ぼつ〱とよめます處だけよまして戴いて御たづね申上げます故何卒〱おみちびき下さいませ。御返事折角おまち申居ります。

●●●●●

□西川光二郎兄（東京）「光」お送り下され有難く存じ候唯物的の改造論が跋扈せる折から「懺悔報恩の奉仕者、不二の光明によれる生活、供養されたる淨財」を叫ぶ諸

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

君の聲の有難きことよ。私も「眞の改革」はインスピレーションを受けし或一人若しくば或團体から始まるやうであると存じ、只今「リバイバルの日本」と云ふ本を書いて居ります。私も讀者の一人にお加へ下され度、郵券お送り申上候。尙別封にて小生發行致し居り候「自働道話」一部お目にかけ申候。

□小林正盛兄（新義眞言宗豐山派宗務局長）……實は一燈園の事は去る十一月中西京に行きて其の消息をきゝ大に快心の美事と存候東都には何故にかゝる精神運動の起らざるかを思ひ一月の『中央佛教』に一言の評論寧ろ賛襄的文字を並べ御同情を申上置候處今回の雜誌に依りて大に愉快に存上候就てはとても財力の上にては何等の御手傳も出來不申候へ共何か感想などかゝせて頂ける事も候はば光榮に存じ候實は小生なども徹底したる精神運動なきに物足らぬ感を抱き居候場合今年の夏は同侶十名ほどを自村に集めて安居結成的に修法觀法の實修生活を營みやや小効果を得申候。來る年にも繼續して決行いたす考に御座候何れはお目にかゝり一燈園の事業につき承り申度先は右御挨拶迄申上候頓首

□山崎文子姉（岡山より）先日は「光」をお送り下さいまして難有う存じました。私共をお覺え下さいましてお恵に預りました事うれしく存じます。どんなにうれしく忝なく頂戴致しましたか先生の御想像の外でございませう。いたゞくや私共せつせと讀みました。キリスト教に今まで使つて居た言葉にばかり慣らされて居る私共にはむづかしい。譬へば結縁だの滿願だのわかりにくい字が澤山ございましたが両人で考へ合うては大たいの御宗旨はわかつて來る樣な氣が致しました。今までの先生のお話もうなづかれる樣です。私共本統に感じ驚きました。これが本統の道でせうと思ひました。そして有難い樣な恐ろしい樣な自分の現在を思つては悲しうございました。拜讀した當分は私は每夜「光」に關係した夢を見ました。山崎も天香師が一生懸命に山崎のため山の中でお祈り下された夢を見たさうで私共は有りがたくて夜一所に泣きました。

　先生こんな事申上げますと私共は光の導いて下さる方に少しは進んで居るとお思ひになるかもしれませんイヽエ決してそんな事はございませんの。お恥かしうございます。私は靜かに考へますと本當に罪人だと考へます。そして謙遜な心で人樣に奉仕し度いと思ひます。けれど一度私が動き出しますとまるでめちやくちやでございます。自分の靜かな時の考とはまるで反對に勝手に怒つたり嫌つたり我まゝ三昧でございます。本當に先生方のお話承り度いと願ふのも勿体ない罪深い駄目な矛盾だらけな奴でございます。此の間も私があんまり强情で我まゝなものですから山崎が「光」のお宗旨もないものだそれではまるで思想を弄ぶ遊戯者だと申します。私は心から悲しうございましたがそれを否定する事は出來ません。私は泣いてお祈り致しました。一体私の樣なものは本當にその道に入る事が出來ませうかしら、どうぞお導き下さいまし。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

いつぞや張谷様にお目にかゝり私はうたれました。つよい〳〵印象を殘してどこかに行つてお仕舞ひになりました。お去りになつた一週間程は私はお恵に溢れたうれしい日を過しましたが、そのうちにだん〳〵もとにもどつて駄目になつて此頃は時々張谷様のお事をお思ひ申上げるばかりとなつて仕舞ひました。

先生私此頃聖書のキリスト様のお救や罪のおゆるしやお奇蹟やお復活を文字通り信ずる事が出來さうに思ひます。それを信じますのに光の敎へて下さる道から進んで行きたいと存じますがいかがでございませう。私はもう迷ふ事なくさうして行かうと決心して居ります。罪深い身、行く手は遠うございます。どうぞお導き下さいまし。お祈りお助け下さいまし。

昨年の夏、子供が病氣しまして後九月から岡山縣の瓦斯も電燈もないのですが、山も川も恐ろしく美しい山の中で例へ様もなく美しい秋を過しました。山崎は汚い勞働服で終日山や野をかけまはつて測量致します。道雄と私は道ばたに坐つては小草をむしつたり小石をあつめたりして測量の旗のうらゝかな秋の空に動くのを見て居りました。はじめて本當の田舍に暮してまはりの自然界や土地の人の生活等から色々の事を敎はりました。十一月に歸る積りで御座いましたが、追加命令でのび〳〵になり只今は岡山に假寓して居ります。山崎は朝早くから夜晩くまで働きに出ます。私は岡山に參りましてから道雄が時々病氣しますので、その守をしながら仕事したり本を讀んだりして居ります。本當に子が病氣しますと體中がひきしまります。此二三日も子供が腸カタルを起して居ります。そして心が淨められる樣な氣がします。(下略)

編輯者より

〇本誌創刊號は天華香洞開扉式に間に合はせようとして急遽編輯しましたので、多くは舊稿をのみ掲載することになりました。せめては本號を勞働問題に獻げ、各方面よりの御寄稿を仰ぎ、それをよすがとして、私共の態度をも告白致さうといふ計畫でありましたが、どう〳〵思ふ通りに參りませんでした。殊に遺憾なのは、天香さんも此問題に關し、私共同人が致して居る具体的方面につきて、是非執筆して下さる筈で、毎日その原稿の到着を待つて居りましたが、つぎ〳〵に起り來る奉仕に御忙はしくて、これも次號に延ばさねばならぬことになりましたことです。まことに遲らした甲斐もなく、物足らぬものに致しました編者の不行届は何と御わびの申上げ樣もございません。只管御免しを願ひます。

〇今後は成るべく月々發行する事を得る樣にと祈つて居ますが、出版費一切を供養の淨財に仰いで居ますのと、原稿も恵まるゝに任せて纒めますので、頁數も一定せず、刊行も不定期と致しておきました。何卒御諒恕を願ひます。

〇表紙の題字は親鸞上人の筆跡と傳ふる自畫贊『歸命盡十方無碍光如來』中のもので、綱島梁川氏書齋所揭のものから寫したものです。

〇御投稿や本誌に關する御通信は、今後は東京市牛込區原町三丁目五十三當地東京宣光社宛に願ひます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

天華香洞錄

西田天香

淨財

宣光社と天華香洞一燈園との差は己を養ふ財を人の己に持ち來る時にその人の心を淨むる機能あると否とにあり。宣光社は之なく一燈園は稍あり天華香洞に於てあざやかにこれあるべきなり。

儒道は神道と共に多く宣光社流に經濟を扱ひ、純粹の佛教と基督教は一燈園又は天華香洞流に扱ふ。

現代の經濟の根本整理は天華香洞より出發せざる可からず。

下坐（無相坐）

坐に上下なき之を無相といふ。但し世に上下の執心あり。無相は無緣の慈を以ての故に下坐を行ず。十字街頭より起り假令一燈園に鉢を托するも宣光社に招かるゝも又坐を下にすべし。當番となり代表となり法師となる等、懇請により已むを得ずんば枉げて人情に從つて暫らくその坐を高うするはよし。一日一回は何れの處にあるも下坐の無相に住すべし。

奉仕と托鉢

一度一切の所有を光明に奉還す（家族も）此心身も奉仕と決定す（大死一番）（心身脫落）此肉身を光明に渡したる後、光明によりて（菩提心勸進によりて）養はる。托鉢即是也。

我十有餘年前より終始然り、唯此際一段嚴肅に之を精進せんとす。

旣に光明に養はる、全部此心身は光明の名によりて一切に奉仕する也。はたらいた爲めに何等の報いを期待するを許さず。最後迄利他的の働きとなり、老い病み食なくば光明に還るまで也。何の用意をか爲さんや。家族にも之を敎ゆるが一番の慈愛也。我家族の靈魂即本地を愛すれば也。

證明

「皆の人善い事をして下さい善い事をして身の立たない事はない」といふ事を一切の前にいひ切るに足る證明を己の體、家庭、預れる道場及財團その他緣ありて扱ふ事の上に爲す可し。

善い事はしたいが徹底して己の損になる恐れがあると誤解して玆に世に無限の葛藤がある。證明の炬火を十字街頭に點して暗夜をてらすは光明に惠まれし不二の行者の責任である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

光明祈願

（暫定）

一、不二の光明によりて新生し、許されて活きむ。

二、諸宗の眞髓を禮拜し、歸一の大願に參ぜむ。

三、懺悔の爲に奉仕し、報恩の爲に行乞せむ。

四、法爾の清規に隨ひ、世諦を成ぜむ。

五、即ち天華香洞に歸り、無相の樂園に逍遙せむ。

（抄綱）

創刊號

目次

○光明祈願……
○序にかへて……西田天香
○光明祈願の後にそへたる……中桐確太郎
○六萬行願結成略意……乞子詰
○財産をどう取扱ふかゞ問題……髙橋正雄
○歸路頭辭……小此木渾沌
○徹底的勞資協調を願じて鐘紡を去る……伊藤猛
○牧師服を行乞服に更へて……林近
○凡人の告白……赤堀建
○白毫を凝視しつゝ……松下吉衛
○解放といふこと……富田清
○西田天香師へ……ゴルドン夫人
○相模灘……張谷僴一郎
○天華香洞錄……乞子詰
○おとづれ（一燈園だより等）……

「光」第二號初版奥付

大正九年三月十四日印刷
大正九年三月十五日發行　（不定期刊行）

東京市牛込區原町三丁目五十三番地
編輯兼發行者　中桐確太郎
東京市牛込區通寺町二十二番地
印刷者　文華堂印刷所
東京市牛込區原町三丁目五十三番地
發行所　東京宣光社

○本誌御入用の方は發行所又は左に便宜御申越ありたし
京都市鹿ケ谷　一燈園
福島市御倉町廿番地　福島一燈園
栃木縣栃木町倭町松下方　栃木宣光社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN